

記 入 日 2015 年 1 月 15 日

1. 概 要

実践団体名	上富田ふれあいルーム		
連絡先	担当者 幾島浩恵 (0739-47-0135)		
プランタイトル	上富田ふれあいルーム防災年間計画！		
プランの対象者※1	小学生（高学年）	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

「防災は特別なものではなく、当たり前なもの」毎月の季節の行事に、防災に必要な知識と体験を取り入れることで、自然に楽しく防災を学ぶ。

朝来（あっそ）児童館が避難所になった時の事を具体的に考え、行動できる小学生をめざす。災害時に「衣・食・住・災害時要援護者への配慮ができる事」を目標とする。

【プランの概要】

1 年間の行事に防災に関連させ、不便な中でも楽しみながら、衣・食・住を満たすことができる。

安否札を作ることで、家族と連絡が取れない時の不安解消を図り、その時にどうすれば良いかわかる。

朝来地域の「防災手ぬぐい」を、子ども達と一緒に作る。

今までに伝えてきた大切なこと、災害時要援護者に配慮することが理解でき、子どもには特に重要な「遊ぶ」ということが、この手ぬぐいを通じてできる。また、手ぬぐいの使い方を知ること、普段から身の周りに備えておくことができる。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

「防災」を「勉強」ではなく、「遊び」としてとらえることで、楽しみながら学ぶことができる。

自分達で作った「安否札」「あっそ防災手ぬぐい」を、朝来小学校全世帯に配布し、説明することで、責任感、自信、リーダーとしての心構えができる。

1 年間で一通りの防災の知識が得られる。また、行事に関連させてあるので、毎年行事があるごとに思い返すことができる



2. プランの年間活動記録 (2014年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	①26日 ハッピーイースター&サバメシでゆでたまご	①空き缶集め、サバメシ作り、牛乳パック集め	①サバメシで作ったゆでたまごでイースターエッグを作る
5月	②17日 子どもの日だ燃えろファイヤー 身近なもので火おこし体験Part① ③24日 Part②	②③火おこしの道具集め 天気の確認、雨天の場合の代替えプログラムの準備	②③マッチを擦ることができる マッチやライターを使わず、火だねを作り、火口から炎にする
6月	④21日 夏至の夜は手作りキャンドルナイトで過ごそう ⑤28日 ゴミ袋でレインコート&ジメジメライラを吹っ飛ばせ! 大声コンテスト	④廃油、空きビン集め ⑤大声トライアルレンタル カラーゴミ袋購入	④廃油を使ったキャンドルで夏至の夜を過ごす(停電時にも備える) ⑤大声トライアルで避難を呼びかける練習をする 梅雨にも防寒にも使えるフード付きレインコートをゴミ袋で作る
7月	⑥12日 暑中お見舞いカード&安否札を作ろう ⑦26日 手作りかまどでクッキング&デイキャンプ	⑥安否札の情報収集・原案作り・印刷・材料購入 ⑦食材、かまどの準備、テント、かき氷の準備	⑥暑中お見舞いを書き、安否札を作る ⑦ブロックで作ったかまどでハイゼックスのごはんやアルミホイルを使用して、野菜を調理する 市販のテントを自分達でたてる
8月	⑧30日 ダイバー〇〇(クッション)&防水マッチ	⑧マイトイレの材料購入	⑧マイトイレの作り方、使い方が分かり、クッションにすることで身近な所に置いておける。防水マッチ作り
9月	⑨6日 ゴミ箱でパケツリレー&水鉄砲合戦 ⑩13日 稲村の火の館見学ツアー ⑪27日 出張減災教室	⑨濡れても良い服、着替え、ゴミ箱持参の連絡 ⑩見学申し込み、バスの手配 ⑪出張減災教室申し込み	⑨ゴミ箱を使用しているパケツリレーのやり方がわかる ⑩過去の津波について知り、昔の人が津波から逃れるために築いた堤防を語り部に案内してもらう ⑪地震、津波の基礎を学び、起震車体験をする
10月	⑫11日~12日 避難所宿泊体験 ⑬25日 ハロウィンパーティー	⑫参加申込書等、事前連絡 1泊2日分の食糧、寝具(段ボール、古新聞)他 ⑬緊急時の音集め、他	⑫実際の避難所となる「あつそ児童館」で1泊2日の避難所宿泊体験を行う ⑬避難カードを書き、近所の安否確認、緊急時の音の聞き分けができる
11月	⑭1日 ぼうさい探検隊 ⑮15日 秋祭りだワッショイ! あつその防災手ぬぐいを作ろうPart① ⑯22日 Part②	⑭見学希望施設へ事前申し込み、消防で消火栓、AEDなどの場所確認 ⑮⑯手ぬぐいの情報収集・原案作り	⑭近所の施設と交流を深め、防災に役立つ様々な物の在処、使い方を学ぶ ⑮⑯朝来地区の防災手ぬぐいを作り、使い方、遊び方を知る。英語、手話で「何かお手伝いしましょうか?」と伝えることが出来る
12月	⑰6日 サンタの袋(非常持ち出し袋)には何が入っているのかな? &クリスマス会	⑰非常持ち出し袋の準備 クリスマス会お知らせ、ケーキ注文、他	⑰非常持ち出し袋の中を見て、どんな物が必要かを知り、使い方を学ぶ
1月	⑱10日 七草粥&食べられる野草を知ろう ⑲17日 新しい年の始まり! 家族に感謝の言葉を171で伝えよう+災害時の子どもの引き渡しについて保護者へ連絡 ⑳24日 「防災腹話術」ひまわりおじさん ㉑31日 キミは人気者! パンダナマジックを覚えよう	⑱野草の情報集め、実物収集 七草粥の準備 ⑲当日、保護者へ子どもに向けてのメッセージを171に録音してもらうよう連絡 子どもの引き渡しについてのお知らせ ㉑荒井勲氏に依頼 ㉒布類を集める 応急手当の方法	⑱七草粥を作って食べながら、身近にある食べられる野草・毒草について学ぶ ⑲家族で、171が使える。災害時の子どもの引き渡しについて保護者に連絡する ㉑楽しく防災を学ぶ ㉒パンダナ使ったマジックでみんなを楽しませることができる パンダナ、三角巾、風呂敷、手ぬぐい、買い物袋、尿取パット、ラップ、ストッキングなどを使った応急手当ができる
2月	㉓2日 節分「正常性バイアス」を追い払おう ㉔14日 カンパンクッキング! カンパンでバレンタインのお菓子を作ろう ㉕28日 わたがし&べっこう飴+七夕メッセージ	㉓オニの衣装、豆まき準備 ㉔カンパン、トッピング、オーブントースター、カセットコンロ、他 ㉕わたがし器、鍋、カセットコンロ、付せん、筆記用具、他	㉓自分の中の「正常性バイアス」を書き出し、豆をぶつけて追い払う ㉔カンパンを様々な方法で美味しく食べる ㉕避難所で、他の人に伝わりやすいメッセージの残し方がわかる
3月	㉖7日 ひな祭りのないないクッキング ひしもち型のお好み焼きを作ろう ㉗14日 上富田ジオパーク探検(彦五郎堤防、救馬溪) ㉘21日 防災教育チャレンジプラン おつかれさま会(反省会)+お月見(家の中のコナモンを美味しく食べよう)	㉖空き缶コンロ、牛乳パック、お好み焼きの材料 ㉗バスの手配、ジオパークの情報収集 ㉘調理の準備、粉類購入、カセットコンロ、鍋、ホットプレート、表彰状作り	㉖調理器具がなくても、工夫して調理することが出来る ㉗地元の災害の歴史、地球の歴史を知る 上富田の自然の美しさ、豊かさを知る ㉘コナモンの美味しい食べ方を研究する 一年間の「防災教育チャレンジプラン」の頑張りが表彰される

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：チャレプラ①】※3

タイトル	ハッピーイースター&サバメシでゆでたまご プロジェクトD どんぐりの苗配布
実施月日（曜日）	平成 26 年 4 月 26 日（土）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習
活動目的※5	技術を身につける
達成目標	「サバメシ」の作り方と使い方がわかる 被災地を応援するために自分達にできることがわかる
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・「サバメシ」の作り方の説明（時間不足のため事前に準備した） ・牛乳パックを切り、燃料棒とする ・鍋用アルミ缶に、生たまごを新聞紙（2分の1）に包んで水で濡らしてアルミホイルで包んで入れ、缶はアルミホイルでふたをする ・軍手をはめて燃料棒を数枚入れ、着火し20分以上燃やし続ける ・茹で上がったら、取り出す（出しにくい時は缶を切る） ・ゆでたまごに絵を書いてイースターエッグを作る ・その他、イースターのゲーム（エッグハント・エッグロールなど） ・最後に、昨年から育てている「プロジェクトD」のどんぐりの苗(被災地の山に植樹するためにどんぐりの里親になっている)を希望者に配布した
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶人数分×2（サバメシ用と鍋用） ・牛乳パック人数分×3 ・軍手人数分×1 ・めうち・缶切り・缶切り用ハサミ ・「サバメシ」の作り方（インターネットより） ・アルミホイル・新聞紙・着火マン・工作用ハサミ・たまご・燃料用牛乳パック・油性ペン・ペットボトルのキャップ（イースターエッグが転がらないように乗せるため） ・エッグロール用段ボール（坂道をつくり、たまご型のチョコレートを転がす） ・エッグハント用たまごの絵を書いた紙(時間のある子に絵柄をかいてもらう) ・「プロジェクトD」どんぐりの苗
参加人数	児童 12 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	たまご×20、アルミホイル×1、着火マン×3 たまご型チョコレート 20 個 約 1400 円



成果と課題	<p>【成果】 普段火に触れることが少ない子ども達が、自分で、サバメシを使ってゆでたまごを作ることが出来た。</p> <p>【課題】 小さい子は怖がるかもしれない。また、火がすぐに消えてしまうので、着火マンと大人の人数は多い方が良い 以前は、サバメシを作るところから始めたが、イースターのイベントも行うと、時間がたりない</p>
成果物	イースターエッグ（ゆでたまご）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ②】※3

タイトル	<p>子どもの日だ燃えろファイヤー身近なもので火おこし体験 Part① 被災地を忘れない「福島ひまわり里親プロジェクト」の苗を児童館の花壇にみんなで植える 「ひまわりの夢企画」（神戸のひまわり）の種を希望者に配布</p>
実施月日（曜日）	平成 26 年 5 月 17 日（土）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	<p>担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師</p>
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	技術を身につける
達成目標	<p>マッチを擦って火をつけることができる マッチを擦ったりライターを使わず、太陽光でマッチに火をつけることができる</p>
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶の底を、金属磨きで磨く (缶の種類によってはできないものもあり) ・マッチの先端は、マジックで黒く塗る <p>①丸いペットボトル（500ml でも 1.5l でも可）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルに水を 8 分目ほど入れ、逆さにして、太陽光を集める ・太陽光の焦点に、黒く塗ったマッチを置いて火をつける <p>②虫眼鏡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫眼鏡で太陽光を集め、黒く塗ったマッチに火をつける <p>③懐中電灯の反射鏡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電球があった位置に黒く塗ったマッチを差し入れ、太陽光を集め、火をつける <p>④アルミ缶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磨いたアルミ缶で太陽光を集め、黒く塗ったマッチに火をつける <p>マッチに火がつけられたら、黒く塗った蚊取り線香にもつけてみる</p>

	<p>時間はかかるが、蚊取り線香は火だねとしても使えるので便利 マッチを擦る練習もする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館の花壇に「福島ひまわり里親プロジェクト」の苗を植える ・「ひまわりの夢企画」(神戸のひまわり)の種を希望者に配布 (花が咲いたら写真を撮って、神戸に送ることも伝える)
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・丸いペットボトル 500ml 又は 1500ml (マッチやキリンレモンなど) ・虫眼鏡・懐中電灯の反射鏡・マッチ・黒油性マジック・蚊取り線香 ・アルミ缶 (アサヒスーパードライ)・金属磨き・ぼろ布・軍手 ・「福島ひまわり里親プロジェクト」の苗 ・「ひまわりの夢企画」(神戸のひまわり)の種
参加人数	児童 12 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	マッチ、金属磨き×1 約 500 円
成果と課題	<p>【成果】 全員が怖がらずにマッチを擦ることができるようになった 何とかすべての方法でマッチには火がつけられた</p> <p>【課題】 春先のため、日差しが弱く、太陽光ではマッチに火をつけるのに時間がかかった。蚊取り線香にはつけられなかった。熱中症に気を付けながらも、夏場に行く方が早く着火し、蚊取り線香にもつけられると思う。7月のデイキャンプの着火につなげればよかった。 アルミ缶の種類により、磨いても光沢の出ない物があるので、事前に確認が必要 (アサヒスーパードライは大丈夫)</p>
成果物	なし

【実践プログラム番号：チャレプラ③】※3

タイトル	子どもの日だ燃えろファイヤー 身近なもので火おこしPart②
実施月日 (曜日)	平成 26 年 5 月 24 日 (土)
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	技術を身につける
達成目標	マッチやライターを使わず、身近な物で火だねを作り、火をおこすことができる

実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<p>火口のつくり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シーチキンの缶に麻ひもを3センチくらいに切ったものを細かくほぐして入れる(チガヤやガマの穂でも可) ・中央に消し炭を置く ・スチールウールとティッシュを混ぜてほぐした物 <p>火吹き棒のつくり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストロー2本のうち、片方に切り込みを入れ、差し込んでテープで固定する <p>火だね作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火打石やファイヤースターターで火口に火花を飛ばす ・弓切り式火おこしで火だねを作り、火口に移す ・アルカリ単一電池を3本直列につなげた物をテープで固定し、プラス局を下にする。細長く伸ばしたスチールウールをプラス局からマイナス極につなげると、スチールウールが燃えるので、火口に移す ・9V電池の+の電極をスチールウールにこすりつけると、スチールウールが燃えるので、火口に移す <p>火だねから炎に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の方法で作った火だね又は蚊取り線香に火をつけたものを、火口において、火吹き棒で拭いて炎にする。炎が燃え上がったら成功
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・シーチキンの缶・麻ひも・消し炭(火口の材料) ・その他の火口(チガヤ・ガマの穂)(スチールウール・ティッシュ) ・蚊取り線香・着火マン・ハサミ ・ストロー・セロテープ(火吹き棒) ・火打石・ファイヤースターター(数種)・弓切り式火おこし ・アルカリ単一乾電池3本・9V電池・軍手
参加人数	児童6人(遅れて参加3人)+大人5人
経費の総額・内訳概要	スチールウール、乾電池 約700円
成果と課題	<p>【成果】 初めは恐る恐る火打石を使っていた子ども達も、だんだん慣れてきて、思い切って火花を飛ばしていた。 火だねまではできても、炎にするのは難しく、大人と2人がかりでやっとの子ども多かった 火が燃え上がると、歓声上がる</p> <p>【課題】 火吹き棒で吹く時に、真上から吹く子がいるので注意が必要(炎が上がると危険) 低学年の子は火吹き棒からつばが垂れてしまい、なかなか着火しなかった スチールウールとティッシュを混ぜたものに、電池や火花を飛ばすと、簡単に炎になるが、軍手にスチールウールが絡まってくっ付くことがあるので注意</p>
成果物	なし

【実践プログラム番号：チャレプラ④】※3

タイトル	夏至の夜は手作りキャンドルナイトで過ごそう
実施月日（曜日）	平成 26 年 6 月 21 日（土曜日）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	廃油を使ったキャンドルの作り方を知り、夏至のキャンドルナイトを体験することで、災害時の停電にも備えることができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・空き瓶に両面テープでスパンコール、シール、テープなどの飾りをつけておく ・タコ糸に結び目を作って、結び目を下にして、割りばしに挟んでビンの中に垂らす ・結び目がちょうどビンの底に来るように調節する ・廃油を鍋に入れて火にかけ、削ったクレヨン又は油絵具を入れて色を付ける ・廃油凝固剤を廃油 200ml あたり 1 袋（650ml 分の凝固剤）入れてよく溶かす ・ビンに流しいれ、タコ糸を垂らす ・好みでアロマオイルを入れて香をつける ・冷えて固まるまで待つ <p>部屋を暗くして、キャンドルに火をつけてみる 夏至、キャンドルナイトについて説明し、可能なら、夕食の時間だけでも家族と一緒に使って楽しむよう伝える（必ず大人と一緒に）</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・廃油・空き瓶（1つ約 100ml）…ジャケフレーク、ジャムなど ・油絵具又はクレヨン・（クレヨンを削る）カッター・スプーン ・割りばし・タコ糸（太目 2mm）・廃油凝固剤・鍋（色の数） ・カセットコンロ（色の数あれば、早くできる） ・着火マン・アロマオイル ・装飾用スパンコール、シール、テープなど
参加人数	子ども 10 人＋大人 4 人
経費の総額・内訳概要	廃油凝固剤×5 約 540 円
成果と課題	<p>【成果】 少人数だったので、子ども達の希望通りの色、香りのキャンドルができた</p> <p>【課題】 以前同じ物を作った時、いくつかあった廃油のボトルのうち、一つだけ、全く凝固剤でも固まらない物があった。油の種類によってはできないのかもしれない</p>

	廃油を熱する作業があるため、大人が何人かは必要 気温が高い時は固まるまでに時間がかかるので、急ぐなら、氷水などで冷やす準備が必要
成果物	廃油キャンドル

【実践プログラム番号：チャレプラ⑤】※3

タイトル	ゴミ袋でレインコート&ジメジメイライラを吹っ飛ばせ！大声コンテスト
実施月日（曜日）	平成 26 年 6 月 28 日（土曜日）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習 避難・防災訓練
活動目的※5	梅雨の雨に役立ち、防寒着にもなるレインコートをゴミ袋で作る「大声トライアル」をレンタルし、大声で津波避難などを促す言葉を叫ぶ練習をする（梅雨時期のストレス解消）
達成目標	レインコートの作り方がわかる 必要な時に大声が出せる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーゴミ袋をレインコートの形に切る（ハサミを滑らせるようにすると良い） ・フードの付け根をセロテープで留める ・両面テープでスパンコールなどの飾りをつけたり、シールを貼ったり、ビニールテープを張って文字を書く <p>着てみるとかなり暑いので、防寒にもなることがわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大声トライアルを使って大声で叫ぶ 「津波だ逃げろ」「助けて」などの、言葉を統一して競ったり、なんでも可として競ったり、チーム戦、個人戦など、休みをはさみながら行う
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・大声トライアルレンタル（他テレビなど） ・カラーゴミ袋・セロテープ・両面テープ（飾りをつけるため） ・飾り（スパンコール、シール、リボンなど） ・カラービニールテープ・油性ペン・ハサミ
参加人数	子ども 7 人＋ふれあいルーム外 4 人＋大人 5 人
経費の総額・内訳概要	カラーゴミ袋 600 円 「大声トライアルレンタル台＋送料 7300 円 のど飴 150 円



成果と課題	<p>【成果】 初めは恥ずかしそうにしていた子も、最後には大口をあけて、思いっきり叫んでいた 雨天続きのため室内でおとなしく遊んでいることが多い中、久しぶりに全力で身体を使ったようなすっきり感があった 声を聞きつけた、ふれあい以外の子も集まってきてみんなで楽しむことができた</p> <p>【課題】 続けると喉を傷めるため、最初と、レインコートを作った後、一休みしてから、もう一度と、休みをはさみながら行った 最後にのど飴を配って終了した 「大声トライアル」の取り扱い説明書は詳しいが、機械の苦手な人には少しわかりにくい。 行事と重なっていて、子どもの人数が少ないことが事前に分かっていたので、小学校でも使ってもらい、そのついでに接続の方法も教えてもらえて助かった（接続したまますべて貸してもらえた）</p>
成果物	カラーゴミ袋のレインコート

【実践プログラム番号：チャレプラ⑥】※3

タイトル	暑中お見舞いカード&安否札を作ろう
実施月日（曜日）	平成 26 年 7 月 12 日（土曜日）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習 避難・防災訓練
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	「暑中見舞い」の書き方と意味がわかる（親戚、知人などの安否を問うこと） 安否札の使い方がわかる
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	暑中お見舞いカード <ul style="list-style-type: none"> ・はがきに「暑中見舞い」を書く ・シールや飾りを使ったため、今回は封筒に入れて送る 安否札 <ul style="list-style-type: none"> ・安否札の使い方と必要性の説明（電話やメールで連絡が取れない時の手段・これを玄関に見えるようにしておけば、救助に来た人が、無駄な検索時間をとられることがなくなる） ・事前に印刷しておいた書類を順番に重ね、クリアファイルに入れてファイルごとパンチで穴をあける ・書類をすべて取り出し、穴を補修シールで補修する ・書類をクリアファイルに戻し、閉じひもで閉じる

	<ul style="list-style-type: none"> ・クリップ鉛筆をファイルの中のひもに引っ掛ける ・上記の作業を、分担して行う (400 部製作)
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・はがき ・クリアファイル (透明) ×400 ・安否札用書類 (例も含めて 4 種各 1 枚ずつ) ・閉じ穴補修シール 4 枚×400 ・閉じひも×400・クリップ鉛筆×400 ・穴あけパンチ
参加人数	子ども 12 人+大人 4 人
経費の総額・内訳概要	クリアファイル×33 袋 3564 円 補修シール×2 216 円 綴りひも 1728 円 ゴルフペンシル (クリップ鉛筆) 4200 円 コピー用紙 1920 円 はがき 108 円 封筒 108 円
成果と課題	【成果】 しばらく会っていない方に、ぜひ「暑中お見舞いカード」を送ってあげてほしいとお願いした 今回「安否札」は使い方を説明し、製作するだけで、持ち帰りさせていない 朝来小学校全世帯に配布する時に、ふれあいルームの子ども達に説明してもらう予定 【課題】 ほとんどの子が暑中見舞いを書いたことがないだけでなく、手紙やはがきの書き方も知らず、自分の住所や郵便番号も知らない子が多かったため、予想外に時間がかかった (切手の値段も知らない) 安否札の必要性を伝えても、電話やメールが当たり前になりすぎている現在では、あまり、実感がなさそうだった
成果物	暑中お見舞いカード 安否札

【実践プログラム番号：チャレプラ⑦】※3

タイトル	手作りかまどでクッキング&デイキャンプ
実施月日 (曜日)	平成 26 年 7 月 26 日 (土曜日)
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	4 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習
活動目的※5	災害対応能力の育成

<p>達成目標</p>	<p>ハイゼックス炊飯袋を使い、様々な種類のごはんを作ることができる（乳幼児、お年寄り、アレルギーに配慮することができる） アルミホイルで調理ができる テントの建て方がわかる</p>
<p>実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）</p>	<p>10：00 集合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてタープで日陰を作る ・かまどを作る場所の土を薄く掘り、焼け跡が残らないようにする ・ブロックでかまどを作る（子どもたちに作らせる） ・ごはんの水加減クイズ（量るものがない時、どのくらいの米にどのくらいの水を入れたら良いか） ・ハイゼックス炊飯袋の使い方（メリット）鍋が汚れない、水が少なく済む、個別に作ることができる、手が汚れていても食べられる ・おかゆと茶がゆを作る（離乳食の必要な赤ちゃんや、入れ歯のないおとしより、アレルギーの人がいたら） <p>子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜を洗ってアルミホイルで包む ・ゆでたまごの準備（新聞半分で包んで濡らし、アルミホイルで包む） ・ハイゼックスの準備（各自 0.5 合） ・おかゆ、茶がゆの準備（ハイゼックス使用） <p>大人（時間短縮のため）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人が火おこしをして、鍋に湯を沸かす ・炭火おこしで着火する（かまどができたならそちらに移す） ・カセットコンロでもお湯を沸かす（かまどができたなら移す） <p>10：40 調理と食器準備（火の管理は大人で）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイゼックスを鍋に入れる（人数分は無理なのでカセットコンロと鍋も使用） ・野菜、卵を炭火の中に入れる ・牛乳パックで皿を作る（汚れ防止にアルミホイルを敷く） ・おかゆ用容器とスプーンを作る <p>11：30 食事開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイゼックスは自分の物を袋を破って食べる ・ホイル野菜は塩とマヨネーズで食べる ・フランクフルト、肉は網の上で焼く ・おかゆ、茶がゆの試食 <p>12：00 後片づけ・涼しい所で休憩</p> <p>12：30 テントたて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館のグラウンドでテントをたててみる（3種） ・大人はなるべく教えない、子供に言われたことを手伝うだけ ・テントの中でかき氷タイム <p>13：00 かまどに使ったブロックで花壇の修理&福島のひまわりのお世話（時間不足のため、大人がやった）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック4つで花壇の枠を作る（いつでも取り外せる） ・ひまわりのまわりの草引き、水やり <p>13：30 アンケート記入+かき氷おかわりタイム</p> <p>14：00 終了予定</p>

<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<p>子ども達に準備してきてもらうもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶 (多めに)・帽子・軍手・タオル ・牛乳パック (あれば) 切らないでそのまま×1~2 個 ・汚れても良い服装・必要なら日焼け止めクリームを塗る <p>こちらで準備するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートブロック (長さ 39 cm) ×4 個 (花壇幅 155 cm) ・バーベキュー用網×2・トング×2・炭火おこし ・七輪×2・大鍋 (かまど用) ×2・大鍋 (カセットコンロ用) ×4 ・ナイフ、包丁・キッチンハサミ・ハイゼックス・アルミホイル×5 ・割りばし・テント・ブルーシート×2・タープ×2 ・炭・薪・着火剤・新聞紙 ・バケツ (金属)・かき氷機×3・牛乳パック (皿として) ・鍬・シャベル・カセットコンロとガス×3 ・アンケート・アレルギー用マヨネーズ・計量カップ <p>食材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜 (ジャガイモ、サツマイモ、キノコ、ニンジン、玉ねぎ、ブロッコリー)・たまご ・調味料 (塩、こしょう、マヨネーズ、砂糖、しょうゆ) ・無洗米・梅干、炊き込みご飯の素・棒つきフランクフルト ・氷 (持ち寄る)・かき氷シロップ・練乳・梅シロップ ・焼肉・焼肉のたれ・ほうじ茶・もち・味付け海苔
<p>参加人数</p>	<p>子ども 15 人+大人 13 人 (取材者含む)</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>炭、アルミホイル、着火剤、網、コンクリートブロック、食材 約 8500 円</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】 保護者の参加も多く、親子でデイキャンプをたのしむことができた テレビ朝日から取材に来られていて、子ども達もいつも以上に一生懸命だった (インタビューでカッコいい事も答えていた) マスコミの力は想像以上に子ども達のモチベーションを高めてくれるものだということがわかった 暑かったが、夏休みの一つの思い出になったと思う 一番おいしかったものは、梅シロップのかき氷と冷やした茶がゆだった</p> <p>【課題】 時間の割には、プログラムが多すぎて、急ぎ足になってしまった ひまわりの世話が出来なかった もう少しゆとりを持って、たとえば、火おこしを 5 月にやった方法でしてみるなど、復習の場に行きたら良かった 暑さ対策にタープを張り、室内で休む時間も作ったが、子どもは外に飛び出してしまい、大人の方がばてているようだった かき氷は必需品 (大人は室内で、子ども達は全員テントに行ってしまった)</p>
<p>成果物</p>	<p>なし</p>

【実践プログラム番号：チャレプラ⑧】 ※3

<p>タイトル</p>	<p>ダイパー〇〇 (クッション) & 防水マッチ ひまわりの種収穫</p>
<p>実施月日 (曜日)</p>	<p>平成 26 年 8 月 30 日 (土曜日)</p>

実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	マイトイレの作り方、使い方がわかる
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<p>作り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイトイレのつくり方の復習 (袋の中に新聞で作ったゴミ箱を入れ、尿取パットを敷く) ・袋、新聞ゴミ箱、尿取パット、ティッシュ、ナプキンをマイトイレ1セットとして、輪ゴムで束ねておく (いくつか作る) <p>クッション作り (タオルの場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タオルを中表に輪になるように安全ピンでとめて、表に反しておく ・中にマイトイレをいくつか入れて、両端をリボンでくくる ・又はタオルでマイトイレを包み、リボンや安全ピンで留め、シールフェルトで飾る <p>クッション作り (服の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開いている所をふさぐように内側から安全ピンで留める ・中にマイトイレを入れて安全ピンかリボンでふさぐ ・又は、服でマイトイレを包み、リボンや安全ピンで留め、シールフェルトで飾る <p>細長い物は、運転中の腰当に便利 (車への備蓄) ズボンを使うとU字クッションもできる</p> <p>早くできてしまった子に、防水マッチを作ってもらおう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッチの頭にマニキュアを塗って乾かす
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>持ってきてもらうもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いらなくなったバスタオル ・小さくなった服など (あまりぼろぼろでないもの) <ul style="list-style-type: none"> ・尿取パット (サルバ 68 枚入り) ×1 ・25リットル買い物袋 (ダイソー) ・ポケットティッシュ・古新聞・ナプキン ・リボン・シールフェルト・安全ピン <ul style="list-style-type: none"> ・マッチ・マニキュア
参加人数	子ども 5 名+大人 4 名
経費の総額・内訳概要	尿取パット 1213 円 袋 108 円 シールフェルト 216 円

	ナプキン 240 円 安全ピン 216 円 マッチ 108 円
成果と課題	<p>【成果】 今までと違い、普段から使うことができ、形によっては、車で使う腰まくらや、U字クッションにもなり、車への備蓄としても置いておくことができる 古くなった服を使うことで、より愛着もあると思われる 早くできてしまった子には防水マッチを作ってもらい、児童館の備蓄として置かせてもらうことにした</p> <p>【課題】 以前、「マイトイレを作ろう」というタイトルにしたら、子どもが来なかった（面白くなさそうを思われたらしい） それ以後、ダイパーケーキ、ダイパーショートケーキと、子どもが喜ぶ工作を取り入れてやってきたが、今回は、「ダイパー〇〇」として、当日まで秘密にしてみた。（でも、参加者は少なかった） マイトイレは長年やっているのでも、飽きてきたのかもしれない 以前、縫い物をした時、予想外に時間がかかったため、今回は、安全ピンでとめる方法としたが、ピンの外れる危険がある クッションの次のネタがない</p>
成果物	ダイパークッション 防水マッチ

【実践プログラム番号：チャレプラ⑨】※3

タイトル	ゴミ箱でバケツリレー&水鉄砲合戦
実施月日（曜日）	平成 26 年 9 月 6 日（土曜日）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習 避難・防災訓練
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	バケツリレーのやり方がわかる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>バケツリレーの手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バケツリレーの方法を説明、チーム分け、役割分担（水をくむ人、リレーする人、衣装ケースに投げ入れる人、空バケツを水場まで戻す人） ・時間を決めて、多くの水をためられたチームの勝ち <p>水鉄砲合戦の手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム分け、ルールの説明（相手チームの肩に付いているポイを水で破る、相手の陣地にある

	<p>ポイを水で破るのが目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のポイが破られたら退場、水を汲んでいる間に狙うのは反則 ・地面にコートを書き（バスケットボールと同じようなコート）、それぞれの肩に色違いのポイを安全ピンでつける ・それぞれのコートに（バスケットならネットがあるあたりに）水汲み用のバケツを準備する（自分の陣地でのみ水が汲める） ・バケツのまわりに3つほどポイを立てる ・時間を決めて勝負する（3分程度） ・終了後、陣地の破れていないポイと、ポイが破られずにコートに残っている人数を足して、多い方のチームが勝ち
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<p>子ども達に準備してもらう物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濡れても良い服、帽子、靴、着替え ・ゴミ箱、桶、ボウルなど壊れにくいもの（お家の人に断ってから） <ul style="list-style-type: none"> ・マヨネーズやケチャップなどの空きボトル×人数分 ・バケツリレーのやり方 ・衣装ケース ・ポイ（予備の紙も） ・安全ピン
参加人数	子ども 18 人＋大人 5 人
経費の総額・内訳概要	安全ピン 108 円
成果と課題	<p>【成果】 バケツリレーについて知っていても、空バケツを水場まで戻す人が必要な事が分かっている人は少ないが、一度体験すれば分かるようになったと思う 水鉄砲合戦は、昨年人気があったので、人数が集まると予想していたが、バケツリレーもかなり盛り上がり、楽しめた</p> <p>【課題】 様々な容器が集まったが、やっぱり、バケツを使おうとする子が多かったので、バケツを完全に撤去してやってみてもよかった 始まる前から全身ずぶ濡れの男子続出。説明のため、室内に入れるのに困った 男女の着替え場所の確保が必要</p>
成果物	なし

【実践プログラム番号：チャレプラ⑩】※3

タイトル	稲むらの火の館見学ツアー
実施月日（曜日）	平成 26 年 9 月 13 日（土曜日）
実施場所	稲むらの火の館（広川町）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師

所要時間または 「コマ数×単位時間」	6 時間半
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	過去の津波について知り、「濱口梧陵」の功績について勉強する
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	10:00 上富田文化会館入口前 出発 11:00～12:30 Aコース「3Dシアター・地震津波防災学習」 12:30～13:30 昼食(わんぱく公園または公民館) 13:30～14:30 Bコース「講話・稲むらの火の館自由見学」 14:30～15:30 語り部「広村堤防・耐久社・濱口梧陵銅像」 15:30 稲むらの火の館出発 16:30 上富田文化会館入口前 着・解散
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	事前準備 ・バスの手配 ・参加者の確認 ・稲むらの火の館に見学申し込み ・広村堤防の見学、語り部要請 ・昼食を食べる場所の確認(雨天時どうするか、公民館借りる) ・一人あたり2個のおにぎり購入 持ち物 ・お茶、タオル、帽子、おやつ、お小遣い(お家の人と相談して決める)、おにぎりがない人は準備する
参加人数	子ども13人+大人5人
経費の総額・内訳概要	稲むらの火の館入場料 3900円 おにぎり 4000円
成果と課題	【成果】 小学5年生の国語の教科書にも載っている「濱口梧陵」について、もっと知ってほしいと思って企画した 昨年から5年生は学校から行くことになっていたらしいが、人数も多く、時間も少なく、防災クイズなどをすることもできなかったとのこと 今回は、十分な時間が取れたので、2回目の子も満足していた 昔の人の人力で作られた「広村堤防」を実際に歩くことができたのは良かった 【課題】 これ以上遠方だと、見学に行くのは難しいと思われる また、バスの大きさの関係で、これ以上の人数を連れていくことも難しいと思われる しかし、保護者にもぜひ見て頂きたい
成果物	なし

【実践プログラム番号：チャレプラ⑩】※3

タイトル	出張減災教室（起震車体験）
実施月日（曜日）	平成 26 年 9 月 27 日（土曜日）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	出前授業
活動目的※5	災害を疑似体験
達成目標	津波・地震の基礎知識を学び、地震体験車を体験する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	地震体験車「ごりょう君」による地震体験 地震・津波の基礎講座(室内にて)
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	事前準備 ・出張減災教室申し込み・日程調整 ・起震車の駐車場所の確認(平坦な所・当日鍵を開ける必要があるか) ・準備物の確認（プロジェクターなど）
参加人数	子ども 11 人+大人 7 人（出張減災教室のスタッフ含む）
経費の総額・内訳概要	無料
成果と課題	【成果】 昨年も「出張減災教室」の依頼をしたが、事業者の変更もあり、目新しく、分かりやすい説明だった 上富田町について事前に調べてくれていたため、津波より、水害を重視した講義で良かった 「避難カード」の配布もあり、「ハロウィン」で使用させて頂いた 【課題】 「地震体験車」を、遊具のように思っている子が多い様子 地震の恐ろしさを伝えるのは難しい
成果物	なし

【実践プログラム番号：チャレプラ⑫】※3

タイトル	避難所宿泊体験
実施月日（曜日）	平成 26 年 10 月 11～12 日（土曜日～日曜日）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	16 時間半
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習 避難・防災訓練
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	電気、ガス、水道のない中で、今までに学んだ事を生かしてみんなで協力して1泊2日を過ごす
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>「避難所体験」のタイムスケジュール</p> <p>1 日目 10 月 11 日（土） 16:30 朝来児童館集合（時間厳守）</p> <p>16:30 ①説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県教育委員会からラジオの取材（和歌山放送ラジオ） ・ 水の使い方について ペットボトル大に名前を書き、①と記入する 水を入れる（その後、蛇口に使用禁止の紙を貼る） 手洗い、洗面、調理などすべてペットボトルの水を使うこと。制限はしなくていい。無くなったらまた水を入れても良いが、何回入れたかわかるように、その都度ペットボトルに数字を書き入れること（ペットボトルにメンディングテープを貼り、鉛筆で書きこむ） ・ 今回の状況 家族で家に居る時、大地震にあう 頭を守って揺れを過ごした後、足元に気をつけながら、安否札のとおりブレーカーを落とし、非常持ち出し袋を持って、隣近所に声をかけ、朝来小学校に避難する。（田辺で津波避難指示が出ている） すごい人の中、一晩朝来小学校で過ごす。 もう津波の危険は無いという情報があったので、家族と一緒に一度家に帰る。 富田川の付近は津波の被害にあった所もあるようだ。 自分の家は…津波に流されている、ぺちゃんこ、家事で燃えている、水浸し… 親は、家の片付けをするために家に残り、子ども達は朝来児童館で待機するように言われる。 朝来児童館…電気、ガス、水は使えないが、建物は無傷。 自分たちがほぼ一番乗りだった。これから田辺や白浜から避難してくる人のために、自分たちに出来る事を見つけよう。

- ・マイトイレを準備する（身障者トイレ、男女各2つ程度設置する）
汚れ物（ティッシュなど）入れゴミ袋の設置と、バケツで水を流せる事を説明したポスター書いてトイレに貼る
（実際には使用しない トイレを使う）

17:00 ②夕食作り

- ・2名程度利き手に三角巾を使用（利き手を使わない）
- ・1名車いす利用者
- ・1名…入れ歯を持ち出せなかった高齢者（足腰も悪い）
- ・ハイゼックスめし袋の準備（一袋一合、二人で一袋）
- ・高齢者には茶がゆを作る
- ・水を出し合ってカセットコンロで鍋に湯を沸かす
- ・ご飯を茹で、レトルトカレー又はハヤシを温める
- ・牛乳パックで食器（皿、スプーン、コップは任意）を作り、ラップを敷いて食べる（パックはサバメシの燃料に、残りご飯でおにぎりを作る）

18:30 ③インドネシアPP（クルブック・ヘジャブ）

言葉、文化、習慣、常識の違い、震災遺構についての考え方など

18:50 ④寝具作り

- ・段ボール、古新聞を使って寝るところを作る（避難所の一人あたりのスペースは1.1～1.7平方メートル 約新聞紙3枚程度）バスタオル2枚使用可
- ・テントをたてる
- ・ブルーシートテントを立てる

19:50 ⑤災害時要援護者について

- ・外国人 Please tell me if you need help. Do you need help?
- ・手話（何かお手伝いしましょうか？）
- ・目や耳の不自由な人がいたら（他の人から分かりにくい）
- ・目と耳の不自由な人がいたら（手書き又は手のひら書き）ペアになってやる

相手の手のひらに指で直接文字を書く方法。特別な技術を身につけなくても、誰にでもできるのが利点。多くの盲ろう者が理解できるが、かな文字を使う人、カタカナ文字を使う人、漢字も含め、どんな文字でも大丈夫な人、読むのが早い人、遅い人様々である。

- ・上記の災害時要援護者は、ただ援護される人ではない。
コミュニケーションをとる方法さえ見つければ、「英語ができる」「手話ができる」「点字が読める、書ける」という特技をもった仲間、援護者である
- ・子ども達には、それらの人を見つけてほしい
- ・ガイドロープについて
- ・過ごしやすい避難所とは？（通り道がある・障害のある人は、壁伝いの方が動きやすいなど）
- ・毛布のガウン
- ・ラップで新聞紙を身体に巻きつける防寒

20:30 ⑥水害から逃げるには？（事前に早く避難する）…津波（急いで逃げる）

- ・水の中を歩くために（棒・ひも）…ひざまであれば危険

- ・もやい結び (相手とつなぐ・特に子ども)
- ・長靴は危険、スニーカーの方が良い
- ・水が迫っているときは、逃げるべきか、留まるべきか、どちらがより安全かを判断する必要がある

時間があれば「もし、～だったらどうする？」を考える

- ・足の不自由な人がいたら？ (車いすの介助を練習。座ったままの大人をトイレまで連れて行けるか？介護の出来る人を探す。トイレに近い所、壁際と代わる。買い物袋でオムツ)
- ・けが、病気の人がいたら？ (大人に知らせる・傷や出血は尿取りパットやラップ、ストッキングで保護出来る・三角巾や買い物袋を使って骨折の固定ができる)
- ・もし、明かりがなかったら (電気が使えず真っ暗だったら)
○○で代用してみよう…サラダ油と空き瓶、油性マジック、マーガリン、シーチキン、空き缶ランタン (ただし、ガス漏れの可能性もあるので、むやみに火をつけては危険)
- ・利き手が不自由だった人から感想を聞く
- ・車いすの人から感想を聞く

21:00 ⑦洗面、歯磨き (ペットボトルの水で)、就寝

- ・大人と希望者はバスタオルなしで寝ること
- ・幾島は車いすの上で寝る

2日目 10月12日(日) 9時頃解散予定

6:30 ①起床・洗面 (ペットボトルの水で)

6:45 ②寝具 (段ボール、古新聞) 片付け (リサイクルに出せるように)

7:00 ③朝食づくり

- ・考えてほしいこと… (アレルギーのある子がいる。食料の分配はどのように配慮すべきか？アレルギーと言えない子、自分で準備出来ない子もいる、アレルギー対応の食材は責任をもってその子に届けること)
- ・ホットドッグ班 (ホットドッグ用パンに魚肉ソーセージとケチャップを挟み、アルミホイルで二重にくるんで牛乳パックに入れ、外で石の上に網を置いた上で燃やす)
- ・ホットケーキ班 (サバメシでホットケーキを焼く) …目玉焼き用アルミカップの内側と9号アルミカップの外側(底)にマーガリンを塗る。目玉焼き用にホットケーキの生地大さじ1ほど入れて、9号を重ねるように乗せ、サバメシで焼く。少ししてから軍手でひっくり返し裏も焼く
- ・ゆでたまご班 (サバメシでゆでたまごをつくる) 一人1個 (自分の分を食べた後は、まだ食べていない人を探し、わたす) (時間がかかるため、カセットコンロでも作る)

8:00 ④液状化実験

- ・このあたりの地盤について説明。液状化とは
- ・ペットボトルに砂と水を入れた物に、建物に見立てた単1電池を置き、マンホールに見立てたフィルムケースを埋め込む。振動を与えると、電池が傾いて沈み、ケースが浮き上がって、水が表面に出てくる

⑤新聞スリッパづくり、卵のカラ踏み体験

- ・散乱したガラスなどから足を守ることの必要性を伝え、スリッパを作る（ガラスから足を守るなら、裏に板や本を張り付ける）
- ・卵のカラをガラスに見立て、裸足か、スリッパでその上を歩いてみる

⑥あつそ児童館の災害備蓄見学（屋根裏にあり）

⑦応援メッセージ入り三角巾作り（時間あれば）

- ・災害時に備え、古シートで作った三角巾を準備する
- ・負傷者が元気に慣れるようなメッセージを書いてもらう

8:30 ⑧一泊避難所で過ごしてみても…（感想、アンケート記入）

- ・防災教室をするきっかけ
- ・6年生になったら、語り部に行く（一部だけ話す）
- ・ここは津波の被害の起きる可能性は少ないが、水害の可能性は高い。どちらも「早く高台に避難する」事が大切。津波は「急いで」水害は「事前に」
- ・上富田町は田辺や白浜からの被災者を受け入れる可能性がある。その時の避難所での行動を経験したり考えたりして、身につけておいてほしい。
- ・被災者を助けたり、手伝ったりするためには？（自分や家族が、けがをせず、生きておくこと）そのためには、「想定にとらわれるな」大きな地震があれば私は高台に避難する。私の家族はそうすると決めている。
- ・逃げて、津波や水害がなかったら、なんて言う？「被害がなくて本当に良かった、次もみんな避難しよう。そうすれば、本当に被害があっても、みんな助かる」（大人は文句を言う）
- ・本当の避難所と違っていたことは？〈電気が使える、水や食料がある、家族が無事ということが分かっている、情報がある、余震の恐れが無い、けがや病気の人がいない〉だから、不便はあっても不安はなかった
- ・避難所で過ごすことはしんどいことが分かったと思う。今のうちに、家を安全にして、（家具の転倒防止、ガラス飛散防止フィルム、耐震化など）災害後も家で過ごすことができるようにするというのも大切
- ・車いすで寝てみた感想（腰が痛い、寝られない）
- ・目標「衣・食・住・災害時要援護者への配慮ができる小学生」を目指す

・アンケート記入

- ・持ってきたお茶の量
- ・飲んだお茶の量
- ・使ったお茶の量
- ・トイレに行った回数

良く眠れましたか？

他に、食べたり、飲んだりしたい物はなんですか？

一番楽しかったことは？

一番しんどかったことは？

自分は、今災害に備えてどんな準備が出来ると思いますか？

自分は、災害時に何が出来ると思いますか？

自分や家族が「災害時要援護者」になった時のことを考えてみましたか？

水が使えないことについてどう思いましたか？

避難所宿泊体験の前と後で、何か気がついたこと、自分の考えが変

	<p>わったことは何ですか？ 避難所宿泊体験について感想を書いて下さい 1) 災害や防災について家族と話をしたことがありますか？ 2) 何について話をしましたか？ 何について話をするつもりですか？</p> <p>ありがとうございました</p>
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<p>準備（幾島）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 段ボール ・ 古新聞（多めに） ・ 2リットル又は1.5リットルのペットボトル ・ 牛乳パック（1人3本） ・ カセットコンロ×2（計3） ・ 大鍋×1（計3） ・ フライパン（雨天室内調理用） ・ 350ミリリットルペットボトルとポリ袋（炊飯用） ・ 計量カップ、菜箸、そのほか炊飯用の小物 ・ 防災手ぬぐい、バンダナ他 ・ サラダ油と瓶（いろいろな明かり） ・ 油性マジック（いろいろな明かり） ・ いろいろな明かり用皿 ・ ボウルと泡立て器と大スプーン（ホットケーキ用） ・ アルミ缶と缶切り、万能はさみ、めうち（サバメシ用・上部を開けておく） ・ 卵のからとブルーシート（カラ踏み体験用） ・ バーベキュー用網とトング×2（ホットドッグ用） ・ 小さめ網（雨天カセットコンロ用） ・ プライバシーテント ・ 小テント ・ ブルーシート（2.7×1.8簡易テント用） ・ ロープ（7m×2 ブルーシートテント用）（3.5m×6もやい結び用） ・ 棒（1.3メートル） ・ 三角巾×2（応援メッセージを入れる三角巾も） ・ 感想用紙 ・ 液状化実験（2リットルペット、砂、石） ・ ほうじ茶 ・ 毛布 ・ インドネシアPP（PCごと） ・ 参加人数分の風呂敷、バンダナ ・ 手話の練習（何かお手伝いしましょうか？） ・ 英語（Do you need help?）（Can I help you?） ・ 水道使用禁止の紙 ・ メンディングテープ（ペットボトルに貼って書ける） ・ プチプチシート （アレルギー用パン、ホットケーキの素） <p>準備（児童館）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はさみ、セロテープ、油性マジック、ガムテープ、紙ひも ・ カセットコンロとガスの予備 ・ チャッカマン×5 ・ マイトイレ（尿取りパット、袋、新聞、ティッシュ）×5 ・ 塩 ・ ハイゼックスめし袋 ・ 参加者名簿（くじ）（子ども、大人の分） ・ 割りばし

	<ul style="list-style-type: none"> ・A4 用紙 ・セロテープ ・プロジェクター <p>事前にしておくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蛇口に張り紙、鉛筆を置く (水はペットボトルから使う事、なくなって入れたら回数を書き込む) ・ゴミ袋設置 ・車いすレンタル ・PP 使えるように (プロジェクター) ・空き缶コンロとサバメシ製作 <p>購入する物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラップ大 ・無洗米 2 キロ×1 (1Kg = 6 合+100g、1 合=150g) (2kg=13号=26 人分) ・ふりかけ ・レトルトカレー、ハヤシ (20 人分) ・ホットドッグ用パン (1 人 2 個) ・魚肉ソーセージ ・ケチャップ×2 ・アルミホイル×2 ・ホットケーキミックス ・卵×人数分 ・(牛乳) ・マーガリン (いろいろな明かりとしても使用) ・目玉焼き用アルミカップ 30 枚入り×2 ・アルミカップ 9 号 76 枚入り×1 ・チョコレート ・シーチキン×3 (いろいろな明かり、シーチキンマヨにする) ・マヨネーズ ・尿取パットと袋 (マイトイレ) <p>子ども達に準備してもらう物 (服・タオルは汚れても良いもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェイスタオル 2 枚 (洗面等に使用) ・大きめのバスタオル 2 枚 (寝床に使用) ・軍手 ・防寒着 (長袖・長ズボン 布団がないので厚めの物) ・懐中電灯 1 つ ・歯ブラシ・はみがき粉 ・自分が飲むためのお茶 (500ml ペットボトルに 2～4 本) 必要と思う量 (名前を書く) ・その他 自分が避難生活をするにあたって必要だと思う物 ・1. 5L 又は 2L のペットボトル 1 本 ・牛乳パック 1L×3 本 (3 本用意できなければ 1、2 本でも可) <p>※牛乳パックはできれば開いていないものが望ましい。</p> <p>借りる物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タープ ・大鍋×2 ・ほうじ茶スティック
参加人数	子ども 9 人+大人 10 人 (取材者含む)
経費の総額・内訳概要	約 8000 円

成果と課題	<p>【成果】 5 回目になる避難所宿泊体験は、ほとんどのメンバーが昨年と同じだったため、非常にスムーズに進んだ 同じ内容だと飽きるのではないかと思ったが、忘れていた子に教えたり、要領よくできるようになっていることが嬉しい様子 避難所に来ることになった状況を設定することで、自分達があっそ児童館のことを一番よく知っているというプライドと、何もわからない大人(ちょうど取材の人がそのような役目になった)をリードすることで、自信に満ち溢れ、子ども達が頼もしく見えた 和歌山放送ラジオの取材があり、「教育の窓」という番組で放送された</p> <p>【課題】 例年、6 年生以降はふれあいルームを辞める子が多いので、高学年のベテランさんが新しい子に教えるという機会が少なくなり、残念である。しかしあまり人数が増えすぎても実施が困難</p>
成果物	なし

【実践プログラム番号：チャレプラ⑬】 ※3

タイトル	ハロウィンパーティー
実施月日（曜日）	平成 26 年 10 月 25 日（土曜日）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント行事 体験学習
活動目的※5	遊び、楽しみながらの防災
達成目標	近所の人への安否確認をして、適切な声掛けができる 避難カードを書くことができる 緊急時の音の聞き分けができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィンの仮装 ・ハロウィンの工作（かぼちゃのキャンディーボックス作り） ・避難カードを書く（個人情報なので、むやみに捨てたりしない事） ・緊急時の音を聞き分ける練習 ・H16. 10. 23 新潟県中越地震（死者 68 人）から 10 年（震災遺構について説明） <ul style="list-style-type: none"> ・安否確認の部屋 （児童）ノックして「〇〇さん、さっきの地震、大きかったですね。大丈夫ですか？」 （安全監視員）「お父さんが下敷きになってるの、誰か助けて」 （安）「ドアが開かないの、開けて」



	<p>(安)「足がすごく痛くて、立てないの、どうしたらいいの？」 (児)「おとなの人を呼んでくるから待ってて」などと、答えられるか(子どもは、むやみに危険な所に入って助けようとするのではなく、まず、大人に知らせてほしいと伝える) (安) ハッピーハロウィン (答えられたらお菓子を渡す)</p> <p>・避難カードの部屋 (児童) ノックする (安全監理員) 合言葉は？ (児童) トリックオアトリート (安) 避難カードを見せる (児) (差し出す) (安) ハッピーハロウィン (ちゃんと書けていたらお菓子を渡す)</p> <p>・緊急時の音聞き分けの部屋 (児童) ノックする (安) 何の音かわかるかな ①「パトカー」 ②「白バイ」 ③「消防車」 ④「救急車」 ⑤「火災警報」 ⑥「緊急地震速報」(最大震度 5 弱以上・震度 4 が予想される地域名を発表) (安) ハッピーハロウィン (当たったらお菓子を渡す)</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・緊急時の音 (ネットから集めて USB に保存) ・音源が再生できるもの ・ハロウィンのお菓子 (3 種類) ・ハロウィンの工作 (かぼちゃのバスケット：オレンジの画用紙・紙コップ×2・黒画用紙・セロテープ) ・避難カード (出張減災教室で頂いたもの)
参加人数	子ども 13 人+大人 5 人(取材者含む)
経費の総額・内訳概要	お菓子 約 800 円
成果と課題	【成果】 ハロウィンと防災を結びつけたのは初めての試み 毎日新聞から取材に来られていて、「ぼうさい甲子園」に応募している団体の取り組みとして紹介された 初めは、安全監理員が助けを求める役をしていたが、次第に、子ども達がいろいろな場面を想定して、交代に助けを求めるなど、自主的に体験練習していた パトカー、白バイ、消防車など、ちょっと聞いたただけではわかりにくい音を全員が聞き分けられるようになった 【課題】 来年はどうしよう？
成果物	かぼちゃのキャンディーボックス

【実践プログラム番号：チャレプラ⑭】※3

タイトル	ぼうさい探検隊
実施月日（曜日）	平成 26 年 11 月 1 日（土曜日）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	校外学習 体験学習 その他(近所の防災に役立つ物の在処、使い方を知る＋地図を作る)
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	近所の防災に役立つ物の在処、使い方を知る＋地図を作る
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼうさい探検隊キットと紙、鉛筆を持って出発 ・事前に見学申し込みをしていた「牟婁さくら園（身体障害者の施設）に行く（施設内の防災設備、消火器・AED などを見せてもらう） ・あらかじめ見当をつけていた防災に役立つものの場所を歩きながら見つける ・朝来小学校以外の高台の避難所確認（大谷総合センター） ・壊れていたり、汚れていたりなど、直してほしいものがないか？ ・児童館に帰ってから、地図にする ・児童館の中にある消火器の位置も確認しておく
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・牟婁さくら園の見学申し込み（日時・人数・見せてほしい事など） ・ぼうさい探検隊キット申し込み（無料） ・近辺の地図 ・近辺の場所（消火栓・AED・防災倉庫・防火水槽など）…消防で教えてもらえる ・近辺の場所（公衆電話）…インターネット NTT で調べる ・消火栓の使い方（水を出す場合は、役場に届けが必要）…消防で教えてもらえる
参加人数	子ども 5 人＋大人 4 人
経費の総額・内訳概要	出来上がった地図の送料 約 300 円
成果と課題	<p>【成果】 「牟婁さくら園」は、あっそ児童館から一番近い施設であるが、今まで全く交流がなかった 24 時間大人がいる施設であり、AED も常備してあり、災害時要援護者のお世話のプロの方々でもあるため、児童館が避難所になった時には頼りになる存在である 「牟婁さくら園」の方も、子ども達と施設を知りたいという申し出を大変喜び、丁寧に説明してくれた 災害時だけでなく、普段も、不審者に付きまといわれた時などの逃げ込める場所として、交流ができたことは良かった お世話になるだけでなく、児童館からも、慰問に行くなど、今後も交流していきたい</p> <p>【課題】 せっかくの交流をこの一度で終わらせたくないのので何等かの機会を</p>

	作ってお互いに普段から行き来できるようになれば良いと思う もっと、障害のある方を身近に感じ、身構えることなく、普通に接 する事ができるようになってほしい
成果物	「あっそ防災キッズ in ふれあい」防災マップ

【実践プログラム番号：チャレプラ⑮】※3

タイトル	秋祭りだワッショイ！あっその防災手ぬぐいを作ろう①
実施月日（曜日）	平成 26 年 11 月 15 日（土曜日）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	あっそ防災手ぬぐいのデザインを完成させる あっそ防災手ぬぐいの遊び方を知る
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な、防災に関する手ぬぐい、バンダナ、ハンカチ、風呂敷などを見てもらう ・「あっそ防災手ぬぐい」の原案を見せ、意味を伝える ・他に書き加えたいことなどが無いかな？ ・手ぬぐいに印刷するゲーム（すごろく）をコピーした物を配り、それぞれで、すごろくの内容を考える ・考えたすごろくでお互いに遊ぶ ・他、4 種類のゲームで遊んでみる ・コピーを回収し、大人が選択し、すごろくの内容を決定する ・手ぬぐいの色（1 色）を多数決で決める (あっその青・富田川の青・青い空 という理由で「青」に決定)
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な防災手ぬぐい、バンダナ、ハンカチ、風呂敷 ・「あっそ防災手ぬぐい」原案 ・「あっそ防災手ぬぐい」コピーした物 ・紙、筆記用具(遊ぶため)
参加人数	子ども 9 人+大人 4 人
経費の総額・内訳概要	あっそ防災手ぬぐい 400 枚 120744 円

成果と課題	<p>【成果】</p> <p>・上富田町のご当地ナンバープレートをもとにして、「5種類の遊び」「コミュニケーションツール」「大切なこと」「緊急連絡先」「171」について書いた手ぬぐいデザインが決まった</p> <p>【課題】</p> <p>これで完璧とは思っていない これをたたき台にして、もっと良い物を作ってくれる子がいれば嬉しい</p>
成果物	あっそ防災手ぬぐい

【実践プログラム番号：チャレプラ⑩】※3

タイトル	秋祭りだワッショイ！あっその防災手ぬぐいを作ろう②
実施月日（曜日）	平成 26 年 11 月 22 日（土曜日）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	手ぬぐいの使い方がわかる 英語と手話で「何かお手伝いしましょうか？」と聞くことができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・手ぬぐいの使い方を知る（包む・かぶる・結ぶ・裂く） ・カラーゴミ袋ではっぴ作り ・はっぴを着て、手ぬぐいを頭に巻く ・英語で買い物（May I help you? ○○Please など） ・困っているようなそぶりの「外国人」と「耳の聞こえない人」がいるという設定で、英語と手話で「何かお手伝いしましょうか？」と聞いてみる
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーゴミ袋 ・セロテープ ・ハサミ（よく切れる物） ・油性マジック ・ビニールテープ ・両面テープ ・はっぴの飾り ・屋台の売り物（お菓子・あめ・せんべいなど） ・手ぬぐい
参加人数	子ども 7 人＋大人 4 人



経費の総額・内訳概要	屋台の売り物(お菓子) 約 700 円
成果と課題	<p>【成果】 手ぬぐいの使い方として、本、ミカン、ペットボトル、弁当箱など、様々な物を包んでみた 頭にかぶる方法も、可愛らしく、かっこよく、日よけにもおしゃれにもなり、本を開いたものをのせてからかぶれば、ヘルメットにもなる 簡単に裂ける事、首に巻くと邪魔にもならず、汗拭き、防寒としても役立つこと 最後には、マントのように背中に着けて走りまわっていた 少しは、手ぬぐいを身近な物として感じてくれたかもしれない</p> <p>【課題】 手ぬぐいの使い方を覚えても、普段手元に置いてもらえるとは思えないため、それ以外の方法を考える必要がある(手ぬぐいで、バッグを作る予定)</p>
成果物	カラーゴミ袋のはっぴ(一応防寒になるかな?)

【実践プログラム番号：チャレプラ⑩】※3

タイトル	サンタの袋(非常持ち出し袋)には何が入っているのかな? & クリスマス会
実施月日(曜日)	平成 26 年 12 月 6 日(土曜日)
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	非常持ち出し袋の中身を見て、使い方を知る
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・サンタの格好をして、非常持ち出し袋を背負って登場 ・非常持ち出し袋を子ども達に持ってもらう(約 20 キロ) ・重すぎると思うので、中を見て、不要なもの、減らしても良いもの、賞味期限の切れている物などをチェック ・使ってみても OK ・使い方のわからない物を質問 ・単 3 電池を単 1 電池にする方法(コピー用紙と 1 円玉 8 枚使用) ・工作(キラキラワイヤーのツリー) ・ケータイタイム ・プレゼント交換(クリスマスの曲を流して、止まった時のプレゼントをもらう)



<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリスマス音楽 (CD) ・ CD デッキ ・ 非常持ち出し袋 ・ サンタの衣装 ・ お菓子 (ポテチなど)、ジュース ・ 皿、カップ、器など ・ クリスマス工作 (キラキラワイヤーのツリー) (ストロー5 cmカット、20 センチきらきらワイヤー金銀各 5 本+カラー5 色各 2 本計 20 本) ・ 鉛筆 (ワイヤーを丸めるためのもの) ・ 飾り用リボンなど ・ A4 コピー用紙・単 3 電池・単 1 用懐中電灯 ・ 1 円玉 (電池の数×8 枚) <p>事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の人数とケーキの希望 ・ 300 円程度の交換用プレゼントを持ってきてもらう
<p>参加人数</p>	<p>子ども 13 人+大人 4 人</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>ケーキ、ジュース、お菓子 約 3700 円 ワイヤー、ストロー(工作) 324 円</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】 非常持ち出し袋の中身を「プレゼントにちょうだい」と欲しがる子もいた 手回し充電のライト、水をろ過する物、水を入れると使える電池、何種類ものアルファ米、おでんやポテトサラダの缶づめなどに人気があった どこで買えるのか聞いてくる子もいた 非常持ち出し袋に興味を持ってもらえれば、保護者に働きかけて、家庭でも準備してくれる可能性が高くなると思われる</p> <p>【課題】 非常食の人気が高いが、今回は見るだけだったので、いつか実際に食べさせてあげたい(数年前には試食したこともある) 単 3 電池を単 1 電池にするのは、けっこう難しく、時間がかかった ので、事前に練習が必要 (うまくいかないこともある)</p>
<p>成果物</p>	<p>キラキラワイヤーのツリー</p>

【実践プログラム番号：チャレプラ⑩】※3

<p>タイトル</p>	<p>七草粥&食べられる野草を知ろう</p>
<p>実施月日 (曜日)</p>	<p>平成 27 年 1 月 10 日 (土曜日)</p>
<p>実施場所</p>	<p>あっそ児童館</p>
<p>担当者または講師</p>	<p>担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師</p>
<p>所要時間または 「コマ数×単位時間」</p>	<p>2 時間</p>

プログラムの カテゴリ、形式※4	イベント・行事 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	食べられる野草・毒草を知る
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・七草の説明 ・七草粥作り ・(炊ける間に) 食べられる野草、毒草を知る (PP) ・試食
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・七草・米 ・シャケ・たまご・塩 ・鍋&お玉 ・カセットコンロ&ガス ・まな板&包丁 ・器&はし ・食べられる野草・毒草PP (プロジェクター)
参加人数	子ども7人+大人4人
経費の総額・内訳概要	シャケ、たまごなど 約500円
成果と課題	<p>【成果】 食べられる野草はたくさんあるが、主に、近辺で見ることが出来る物と、よく似た毒草があるものを紹介した 「セリとドクゼリ」「ヨモギとトリカブト」「ミツバとキツノボタンとウマノアシガタ」「ウルイとバイケイソウ」などは、見かけも良く似ているのに一方は毒があるため、自信がなければ、口にしないことを伝えた</p> <p>【課題】 私自身は、ほとんどの野草を食べてみた事があるが、子ども達にはないようだったので、機会があれば、七草以外の野草を食べるイベントもやってみたい</p>
成果物	七草粥

【実践プログラム番号：チャレプラ⑱】※3

タイトル	新しい年の始まり！家族に感謝の言葉を 171 で伝えよう+災害時の子供の引き渡しについて、保護者へ連絡
実施月日(曜日)	平成27年1月17日(土曜日) 予定
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2時間

プログラムの カテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	子どもと保護者が、171 を実際に使ってみる
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<p>事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者へ、1月17日の朝に171にメッセージを吹き込んでもらうようお願いする <p>手順</p> <ul style="list-style-type: none"> 切り絵とゲーム大会(紙と鉛筆で遊べるゲーム)を進行しながら、一人ずつ電話で171をかけてメッセージを聞く メッセージに返事を吹き込む 家に帰ったら聞いてもらうように伝えること 災害時の避難と安全確保について、保護者にも配布しているが、みんなも覚えておくこと
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> 人材 道具、材料等 	<p>事前配布</p> <p>平成27年1月13日 上富田ふれあいルーム 講師 幾島浩恵 保護者各位</p> <p>日頃は上富田ふれあいルームの活動にご協力いただき、ありがたく御礼申し上げます。 特に今年度は、防災活動ご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。</p> <p>平成27年1月17日は、阪神淡路大震災からちょうど20年目の節目になります。 この機会に、家族が離れ離れのまま避難することになった時に連絡を取り合う方法 災害用伝言ダイヤル「171」の使い方を、体験していただければと思います。</p> <p>1月17日は「171」の体験ができる日になっております。 17日に、自宅の電話の「171」をダイヤルし、案内のとおり、子どもさんに聞こえないようにメッセージを録音してください。 伝言の保存時間が6時間なので、できるだけ、午前9時半以降にお願いします</p> <p>「今年も仲よくしようね」とか「元気に大きくなってくれてありがとう」とか、子ども達が喜ぶメッセージを入れて頂けたらと思います。</p> <p>兄弟、姉妹で、同じメッセージを聞くことになるので、どちらにも伝わる内容をお願いします。</p> <p>ふれあいルームで一人ずつ電話を使ってそのメッセージを聞き、返事も録音する予定ですので、お家で、それを聞いてあげてください。</p> <p>お手数をおかけしますが、連絡を取りたい家族がお互いに「171」について知っていなければ、災害時にも役に立ちません。</p>

	<p>メッセージを録音することが困難なご家庭は事前にふれあいルームに連絡を頂ければ、代わりに録音しておくことも可能です。</p> <p>新しい年の始まりに、家族同士のあいさつと、いざという時に役に立つ知恵を共有することは、家族の絆をより深くするものと思っております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>・171の基本的操作方法も配布する（ネット上にPDFあり）</p> <p>災害時の避難と安全確保について</p> <p>保護者各位</p> <p>災害時の避難と安全確保について</p> <p>上富田ふれあいルーム実施前に、気象警報「暴風警報」「大雨警報」「洪水警報」が発令された場合 上富田ふれあいルームは中止となります</p> <p>上富田ふれあいルーム実施中に気象警報が発令された場合 原則、保護者のお迎えをお願いします</p> <p>上富田ふれあいルーム実施中に避難待機の必要が生じた場合 原則、保護者のお迎えをお願いします あつそ児童館での待機が危険と判断される場合は、朝来小学校へ集団避難します 電話での連絡が困難な場合、「災害用伝言ダイヤル171」に伝言することもあります</p> <p>児童の安全のため、ご協力お願いいたします</p>
参加人数	未定
経費の総額・内訳概要	無料
成果と課題	<p>【成果】 「171」の事を知っていても、実際に使った事がある人は少ないため、1年のあいさつを兼ねて家族で使えるようになる 今までに、ふれあいルーム実施中に警報が出たことはないが、今後のため、児童館待機が危険な場合の避難場所を伝える</p> <p>【課題】 伝言を録音してくれるのは、母親が多いと思われるが、父親や祖父母、親戚にも使い方を知っていただきたい</p>
成果物	なし

【実践プログラム番号：チャレプラ⑳】※3

タイトル	「防災腹話術」 荒井勤氏
実施月日（曜日）	平成27年1月24日（土曜日） 予定

実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式 ^{*4}	演劇（腹話術）
活動目的 ^{*5}	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	楽しみながら、防災の知恵を学ぶ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	防災腹話術 実演
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防災腹話術師 荒井勲氏 ・プロジェクター
参加人数	未定
経費の総額・内訳概要	未定（荒井氏への講師料は上富田町教育員会から、交通費は防災教育チャレンジプランから支給）
成果と課題	【成果】 いつもと違う形での防災教室を、楽しみにしている 【課題】 もっと近かったら何度でもお願いしたい
成果物	なし

【実践プログラム番号：チャレプラ⑳】※3

タイトル	キミは人気者！バンダナマジックを覚えよう
実施月日（曜日）	平成 27 年 1 月 31 日（土曜日） 予定
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ 体験学習
活動目的※5	遊び、楽しみながらの防災
達成目標	バンダナマジックを覚えて、避難所などで物がなくても、楽しみを提供することができる バンダナ、三角巾、風呂敷、手ぬぐい、買い物袋、尿取パット、ラップ、ストッキングなどを使って簡単な応急手当ができる 「あっそ防災手ぬぐい」が完成していれば、バッグを作る
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・バンダナマジック 動く安全ピン・消えるコイン・操られるバンダナ ・バンダナ遊び 人形・ウサギ・バナナ・リボン・ネズミ ・バンダナ・三角巾・風呂敷・手ぬぐい、買い物袋、尿取パット、ラップ、ストッキングを使った応急手当 ・風呂敷でエコバッグ・リュック・ポンチョをつくる ・バンダナで帽子 ・三角巾に負傷者が元気になるようなメッセージを書き込む ・「あっそ防災手ぬぐい」を使って、各自好みのバッグを作る <p>①あずま袋 ②手提げ袋 ③リュック ④巾着袋</p> <p>針や糸を使わず、両面テープと安全ピンでつくる</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・バンダナ×人数分 ・防災バンダナ（医療支援バンダナなど） ・バンダナの使い方 ・三角巾（書き込み用も） ・風呂敷 ・手ぬぐい ・防災・救急に役立つ日用品活用法&ロープワーク（本） ・応急手当の本 ・両面テープ（透明強力フィルムタイプ 1.5 cm幅） ・安全ピン ・綿ロープ（ループエンド）
参加人数	未定
経費の総額・内訳概要	両面テープ、安全ピン、綿ロープ、ループエンド 約 1200 円

成果と課題	<p>【成果】 テレビやゲームなど、与えられる遊びが多い子ども達が、一枚の布で多くの人を楽しませることが出来るようになれば、特技にもなり、自信にもなると思う 布などを使って簡単な応急手当が出来るようになれば、災害時の戦力となりえる メッセージ入りの三角巾を作ることで、負傷者への思いやりの気持ちが芽生える 手ぬぐいのバッグは、針や糸を使わず、両面テープと安全ピンを使うことで、低学年の子でも簡単につくることができる。普段使いだけでなく、これを避難袋にすることもできる。また、元の手ぬぐいに戻すのも簡単である</p> <p>【課題】 両面テープのバッグは耐久性に劣るので、普段使いにどのくらい耐えられるか心配 何度か洗濯してみて、耐久性を調べようと思う</p>
成果物	<p>応援メッセージ入り三角巾 手ぬぐいバッグ (4種類)</p>

【実践プログラム番号：チャレプラ②】※3

タイトル	節分「正常性バイアス」を追い払おう
実施月日（曜日）	平成 27 年 2 月 2 日（土曜日） 予定
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	<p>担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師</p>
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	<p>イベント・行事 講習会・学習会・ワークショップ</p>
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	「正常性バイアス」の意味が分かり、自分の中の「正常性バイアスオニ」を追い払うことができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・正常性バイアスとは（都合の悪い情報を無視したり、「自分は大丈夫だろう」「今回は大丈夫だろう」などと過小評価する心、根拠のない自信） ・小さい頃は、自分の中の悪いオニを追い出すために豆をまいた。今日は自分の中の「正常性バイアス」を書きだして、それに豆をぶつけて追い払おう ・付せんに書き出し、オニの身体に貼って豆（発砲スチロールの玉）をぶつける（例：火災警報器が鳴っても逃げないオニ、避難指示が出て逃げないオニ、雨が沢山降っても大丈夫だろうと何もしないオニ、など） ・いつもの豆まき合戦（部屋を長机で半分に仕切り、チームを二つに分け、合図が鳴ったら相手の陣地に豆を投げ込む。ストップの

	合図でたくさん豆のあるチームが負け)
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・発砲スチロールの玉 (豆) ・オニの衣装 ・付せん ・筆記用具 ・正常性バイアスとは
参加人数	未定
経費の総額・内訳概要	豆、付せん 約 400 円程度
成果と課題	<p>【成果】 「正常性のバイアス」という聞いたことのない言葉の意味を知り、根拠なく「大丈夫だろう」と思い込んでいたことを再認識することで、今後の災害に対する心構えが変わると思われる</p> <p>【課題】 「正常性バイアス」を子ども達に伝えることはできても、大人が理解しなければ、避難にはつながらない</p>
成果物	なし

【実践プログラム番号：チャレプラ⑳】 ※3

タイトル	カンパンクッキング！ カンパンでバレンタインのお菓子を作ろう！
実施月日（曜日）	平成 27 年 2 月 14 日（土曜日）予定
実施場所	あつそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	カンパンを様々な方法で食べる方法を研究し、災害時にも飽きることなく、美味しく食事を楽しむことができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・カンパンをそのまま食べる（味見） ・感想を聞く（固い、喉が渴く） ・調理 <p>下記の材料を使ってグループごとに調理してみる 例：チョコレートを溶かしてコーティングして、飾る 例：ケチャップ、玉ねぎ、チーズをのせピザ風に焼いてみる 例：シーチキンマヨネーズ、ジャム、ゆで卵マヨネーズなどをトッピングする 例：味噌汁に浮かべたり、カレーに付けてみる</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・試食 ・人気投票 ・その他、試してみたい調理法
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	持ってきてもらうもの <ul style="list-style-type: none"> ・エプロン・マスク・三角巾 準備物 <ul style="list-style-type: none"> ・カンパン・チョコレート・チョコスプレー、アラザンなど ・デコペン ・炒めた玉ねぎ、ピーマン・溶けるチーズ・ケチャップ ・シーチキン・マヨネーズ・ゆでたまご ・ジャム ・インスタントみそ汁・レトルトカレー ・コップ・器・オーブントースター・鍋・箸
参加人数	未定
経費の総額・内訳概要	約 2000 円
成果と課題	【成果】 普段「カンパン」を食べる機会はほとんどないと思われるが、災害時に備えている家庭はあると思う 食べ慣れない物が続くとだんだん食事が辛くなってくるので、少しでも、楽しめれば良いと思う デコレーションは毎年人気があるので、楽しんでくれると思う 【課題】 「カンパン」と油がよく合うという情報があるが、調理室のない児童館では揚げ物は難しいため、実施できない
成果物	デコカンパン・カンパンピザなど

【実践プログラム番号：チャレプラ②④】※3

タイトル	七夕メッセージ（綿菓子&べっこう飴と合同）
実施月日（曜日）	平成 27 年 2 月 28 日（土曜日） 予定
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	避難所での、メッセージの残し方がわかる



<p>実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日は七夕です。短冊にほしいものを書いて、乙姫さんと彦星さんに願いをかなえてくれるようお願いしましょう」 ・短冊に見立てた付せんに、子ども達には、自分の1番欲しいものを書いてもらい、それを笹の絵を書いた模造紙に好きなように貼ってもらう ・短冊に書いた欲しいものが、たまたま手に入ったとして、2番目に欲しいものを書いて貼ってもらう ・それもまた手に入ったので、3番目に欲しいものを書いて貼る ・大人には「あげても良いもの」を書いて貼ってもらう <p>そこへ、乙姫さんと織姫さんが登場。 「なんか願い事がたくさん書いてあるけど、名前のないものもあるし、同じ人がいっぱい書いてて、どれが一番新しい願いかわからないよねえ。短冊の色もバラバラで見にくいし、あちこちに貼ってあるし。あげたい人とほしい人を合わせるのも一苦労だわ」と話をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の問題点を解決するにはどうしたら良いか？ ・他人にメッセージを伝えたいときは、「名前と書いた日や時間を書くことが大切」ということと、「メッセージの種類(あげたい・ほしい)によって色や貼る場所を分けることが大切」ということが理解できる ・これは避難所などで、家族や知人にあてたメッセージを書く時に重要な書き方なので、覚えておいてもらいたい <p>綿菓子・べっこう飴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたがし器2台で、グラニュー糖の綿菓子、キャンディの綿菓子を作る ・カセットコンロと鍋で砂糖を煮詰め、油を塗ったアルミホイルの上にべっこう飴を作る
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<p>準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大判用紙又はホワイトボード(笹の絵を書く) ・付せん(3色)・筆記用具 <p>綿菓子・べっこう飴の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラニュー糖・あめ・砂糖 ・アルミホイル・サラダ油・爪楊枝 ・綿菓子製造機×2台・カセットコンロ ・鍋・割りばし・飲み物・塩辛いもの
<p>参加人数</p>	<p>未定</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>付せん、食材など 約1300円</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】 実際には、避難所でメッセージを届けるのは難しいが、もし届くのなら、正確な情報を届けたい 名前、日にちはもちろん、時間の記入も大切と思われる</p> <p>【課題】 それぞれで不要な物(あげても良いもの)を持ち寄り、メッセージを使って交換しあうようにすれば、よりリアルで楽しみが増えると思う。時期は、もちろん、7月に行くべき</p>
<p>成果物</p>	<p>七夕飾り 綿菓子、べっこう飴</p>

【実践プログラム番号：チャレプラ②⑤】※3

タイトル	ひな祭りのないないクッキング ひしもち型のお好み焼きを作ろう
実施月日（曜日）	平成 27 年 3 月 7 日（土曜日）予定
実施場所	あつそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習 避難・防災訓練
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	ひな祭りに「ひし餅型のお好み焼きを作る」ただし、包丁、まな板、ボウル、はし、コンロ、フライパンがない。無事に作って食べることが出来るか？
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ひしもち型のお好み焼きの作り方（牛乳パックを輪切りにして、ひし形にゆがめ、その中にお好み焼きの生地を入れて焼く） ・ただし、包丁、まな板、ボウル、はし、コンロ、フライパン、がない ・包丁なしで、どうやってキャベツを切るか？（ハサミ、カッターで切る） ・まな板は？（牛乳パックを切り開く） ・ボウル、はしは？（牛乳パックでつくる） ・コンロは？（空き缶コンロを作る） ・フライパンは？（火箸など燃えにくい物にアルミホイルを巻きつけて、即席フライパンにする） ・生地準備とコンロ作りの班に分かれて作業する ・空き缶コンロの上に即席フライパンをのせ、生地を焼く ・残りは普通に作り、ホットプレートや、カセットコンロとフライパンで牛乳パックのひし形の型の中でお好み焼きを焼く ・皿も牛乳パックを使って作る
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>持ってきてもらう物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エプロン・マスク ・牛乳パック（できれば開いていないもの）あるだけ <p>準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホットプレート・フライパン・カセットコンロ ・牛乳パック・ボウル・お玉・泡立て器 ・お好み焼き粉・玉子・キャベツ ・ハサミ、カッター（きれいに洗っておく） ・アルミ缶（コンロ用）・シーチキンの空き缶（コンロ用） ・万能ハサミ（空き缶カット用） ・サラダ油（コンロの燃料、アルミホイルの焦げ付き防止） ・ティッシュ・はし・アルミホイル・火箸 ・お好みソース・マヨネーズ・削り節
参加人数	未定

経費の総額・内訳概要	約 1500 円程度
成果と課題	<p>【成果】 避難所でもある児童館には、調理室がないため、普段は調理器具がない 食材とサラダ油を持ち込めたとして、児童館にある物を使ってどのように調理するか、すぐに答えを出さず、考えさせながら実践してみる 簡単な空き缶コンロの作り方がわかる</p> <p>【課題】 火を使うので、大人の手が必要 他にも、ラーメン、焼きそば、などが児童館にあるもので作ることができるか考えてみて、次の実践につなげてもおもしろいと思う</p>
成果物	ひし餅型のお好み焼き

【実践プログラム番号：チャレプラ②⑥】※3

タイトル	(みんなでお花見) 上富田ジオパーク探検 (彦五郎堤防、救馬溪)
実施月日 (曜日)	平成 27 年 3 月 14 日 (土曜日) 予定
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 校外学習・移動教室
活動目的※5	その他 (ジオパーク見学)
達成目標	ジオパークを見学することで、過去の災害跡、地球の動きがわかる
実践方法・進め方 (簡条書きまたはフロー)	<p>・ジオパークとは (地球科学的に見て重要な自然の遺産を含む、自然に親しむための公園) 日本ジオパーク委員会では「大地の公園」という言葉を使っている。 ジオパークの活動は以下の 3 つに要約される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保全 (conservation) - 地元の人たちが大地の遺産を保全する。 2. 教育 (education) - 大地の遺産を教育に役立てる。 3. ジオツーリズム (geotourism) - 大地の遺産を楽しむジオツーリズムを推進し、地域の経済を持続的な形で活性化する。 <p>・上富田ジオパーク認定 (南紀熊野ジオパーク) について 2014 年 8 月 28 日、日本ジオパーク委員会が開催され、審査の結果、「南紀熊野」地域が日本ジオパークに認定されることが決定。南紀熊野ジオパークは、本州最南端となる紀伊半島の南部地域にあり、和歌山県新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町の 9 市町村の範囲となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出発 ・見学 ・感想

準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・バスの手配 ・参加者確認 ・南紀熊野ジオパークの説明 ・お茶、タオルなど
参加人数	未定
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 近くに当たり前にあったものが、貴重な物と認められた事を喜び、学習することで、上富田の自然の美しさを再確認する機会になると思う 【課題】 「救馬溪」も「彦五郎堤防」も、桜の名所のため、次回から、「お花見」の時期に行くことが出来たら、もっと良い景色が見られると思う
成果物	なし

【実践プログラム番号：チャレプラ⑰】 ※3

タイトル	防災教育チャレンジプラン おつかれさま会（反省会）+お月見（家の中のコナモンを美味しく食べよう）
実施月日（曜日）	平成 27 年 3 月 21 日（土曜日） 予定
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	ご飯やパンがなくても、家にあるコナモンを美味しく食べることができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>災害後、家の中の米、パンがなくなった。お店にも売っていない。様々な粉があったので、これを何とかして、美味しいものを作ろう</p> <p>・上新粉、白玉粉、小麦粉、片栗粉の違い</p> <p>上新粉（精白したうるち米を洗って乾燥させた後、少量の水を加えて製粉してふるいわけしたもので、主に製菓材料として使用する。非加熱の材料であり、製品にするには加熱の過程が必要となる）</p> <p>白玉粉（しらたまこ）は、もち米を加工した粉（うるち米を加える製品もある）。もち米を粉にし、水中で沈殿した物</p>

	<p>小麦粉（こむぎこ）とは、小麦を挽いて作られた穀粉)</p> <p>片栗粉（片栗粉（かたくりこ 英名：Starch）は、精製したデンプン（澱粉）の粉のこと。近年ではジャガイモから製造されている。かつては文字通り、日本北東部の原野などに自生するユリ科のカタクリの根茎から製造した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を加えて加熱（糊化）…澱粉（でんぷん）が熱湯を加えられるなどによって糊（のり）状になること（糊化によってできたデンプンは”αデンプン”と言い、生のままのデンプンよりも消化されやすく、炊きたてのご飯が良い例です） ・必ず糊化させてから食べる ・後は自由 ・焼く、ゆでる、甘い味、しょっぱい味、ミックス、作ったものは必ず食べる事（食べるものを粗末にしないこと） ・出来るだけ、洗い物を少なくするにはどうすればよいか（袋を使って粉を混ぜる） ・手が汚れていたり、傷があったら、どうする？（手に袋をかぶせるなど） <p>アレルギーの人が比較的多い物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小麦、大豆 ・今日使ったものの中で、この2種類が含まれている物はどれか？（小麦粉・きな粉・しょうゆ・みそ） <p>試食の後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お疲れ様会（「防災教育チャレンジプラン」全27回のうち、何回参加できたかを記載した賞状を全員に配る） ・特に面白かったこと。興味深かったことは何か？ ・あまり面白くなかったものは何か？ ・もう一度やってみたいことは何か？ ・新しくやってみたいことは何か？ ・この1年で自分が成長したと思うか？ ・自分が、まわりの人のためにできることは何か？
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<p>持ってきてもらう物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エプロン・三角巾・マスク <p>準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍋・カセットコンロ（ガス）・フライパン・ホットプレート ・はし・あみ杓子・ボウル・器・ビニール袋 ・上新粉・白玉粉・小麦粉・片栗粉・きな粉 ・しょうゆ・砂糖・塩・みそ
<p>参加人数</p>	<p>未定</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>約1000円程度</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】 様々な粉類や調味料の原材料と性質を知ること、アレルギー（特に、小麦、大豆アレルギーは多い）に対応できるようになる 災害時の限られた食材でも食事を楽しむことができる</p> <p>【課題】 「お月見」なので、本来は9月に実施すべき</p>
<p>成果物</p>	<p>月見団子 他</p>

【実践プログラム番号：チャレプラ平成 25 年度】※3

タイトル	お化け屋敷で涼しくなるぞ～
実施月日（曜日）	平成 25 年 7 月 20 日（土曜日）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	新聞パーティションの作り方がわかる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・別の日に 2 時間かけて、お化け屋敷のセット、衣装を作っておく ・子どもの頭の高さ位にヒートンがつけられる所はつけ、無理な所は、鉛筆などをビニールひもにくくりつけ、窓やロッカーのドアに挟むようにして、紐を部屋の端から端に渡す ・ひもに古新聞を垂らすようにして、ガムテープ、セロテープで固定する ・交互に通り道を作って通路にしたり、お化けが隠れられるように小さい部屋を作る ・段ボールを使用しても良い
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ビニールひも ・鉛筆など(紐にくくりつける) ・ヒートン ・ガムテープ ・セロテープ ・古新聞 ・段ボール
参加人数	子ども 22 人+大人 4 人
経費の総額・内訳概要	ヒートン、ビニールひも 約 250 円
成果と課題	<p>【成果】 お化け屋敷をするのに、一部屋しかなかったため、通路や小部屋を作るために新聞パーティションを利用した この方法で、避難所を男女別に仕切ったり、着替えをする場所を作ることが出来ると説明した</p> <p>【課題】 今回は、お化け屋敷だったので、少しくらい隙間があっても問題なかったが、避難所では、きちんと仕切らなければならない。それは難しいと思う</p>



成果物	新聞パーティション
-----	-----------

【実践プログラム番号：語り部】※3

タイトル	朝来小学校語り部(6年生)
実施月日(曜日)	平成27年1月16日(金曜日)
実施場所	朝来小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分
プログラムのカテゴリ、形式※4	その他学校内での時間 その他(語り部 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	その他(阪神淡路大震災について知る)
達成目標	阪神淡路大震災で実際にあったことを知り、繰り返さないために今できることを考える
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<p>(朝来小学校 防災教室 語り部 (平成27年1月16日))</p> <p>はじめに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月17日は阪神淡路大震災から20年 ・毎年1月17日には早く起きて、窓開けて、TVつけて5:46黙とうする。 ・昨年初めて、みなべ紀州梅の郷救助隊の皆さんと、神戸、東遊園地での炊き出しに行ってきた。19年目にして、やっと、現地でのその時間を迎えることができた。 ・5時46分に近づく時計の音が聞こえると、ひざががくがくして、心臓がどきどきして、黙祷と同時に涙が出てきた。和歌山では、そんなことなかったのに。やっぱり、まだ忘れていないと思った。 ・今夜また神戸に向かって、20年目の黙とうをささげてこようと思います <ul style="list-style-type: none"> ・学校や塾で勉強、家でお手伝いをしながらいろんなことを教えてもらっている ・それは、大人になるために必要な知識、生きていけば役に立つこと ・何か大きな災害があった時、生きる残るために必要な勉強をしているか? ・生き残った後、生き続けるために必要な勉強や準備をしているか? <ul style="list-style-type: none"> ・住んでいた場所…神戸市東灘区・阪神高速が倒れた所の上 ・死者6434人のうち区では一番多い1471人が亡くなった(長田区900人・灘区900人) ・職業…看護師 病院まで徒歩一分の看護婦寮 ・準夜勤が終わってうとうとしていた時、ドーン、ゆさゆさ、と揺

れた後はぐるぐる回った。家具が順番に倒れるのが音で分かった。怖くて誰かに会いたい。一人で死ぬのは嫌だ。

- ・四つん這いで這い出たおかげで足にけがをしなかった。

隣の人に声をかけ 非常ベル 余震の度に悲鳴 玄関で立ち止まる それぞれの病棟に行こうと声掛け 病院の電気は非常用電源でついていた 裸足にスリッパ、パジャマで5Fへ

5F…家具やロッカーがすべて内側に倒れ、自動製氷機が壁から離れ、水が壁から噴き出していた。けが人は大したことなし

高台の病院から神戸の町を見下ろすと、100万ドルの夜景が真っ暗、あちこちにオレンジ色の火が見える

1F 外来が人手不足 (既婚者が多いため)

大勢のけが人 (声をかけられるまで動けなかった)

泥だらけの傷も断水で水がなく、洗えない (点滴で洗う)

- ・痛みも感じないほど、ひどいケガ (おしり) 麻酔薬もなくなる
- ・背中一面やけどのパン屋さん
- ・骨が見えるくらい頭の皮のめくれた人
- ・大けがをしながらも娘の治療を先にと言ったお母さん
- ・子どもの名前を呼び、泣きさけぶ母親の声 (イニシャル K) …夢? 体だけ動いていた
- ・やや明るくなった頃、自家発電の燃料が無くなり、停電
- ・エレベーターが動かない。寮から懐中電灯を持ってくる、瞳孔を見るために使われる。懐中電灯を口にくわえ、階段を上がる時は生きている人を、降りるときは亡くなった人を運んだ。手が血だらけでも洗えない (腹が立った)

・そこら中で救急蘇生

・今は、大きな病院ではトリアージの訓練が行われている (災害や事故で発生した多くの負傷者を治療する時に治療の優先順位をつけること)

トリアージタグ

赤…緊急治療群

黄…準緊急治療群

緑…保留群 (軽傷)

黒…死亡群、治療・搬送待機群 (助かる可能性の少ない人)

- ・大規模災害時のトリアージは、「呼吸の有無を確認し、気道確保を試みても呼吸を認めない者は、黒 (死亡群、治療・搬送待機群) のタグが付けられる
- ・「一人でも多くの人を助ける、救命第一」が目標であるから、「一人の命を救うために多数の人を犠牲にしてはならない」だから、医療関係者は蘇生はしない。
- ・もし、病院でなく、自宅や友達の家なら、たとえ助けられる可能性は低くても、精一杯家族や友達を助けたいと思う。
- ・朝来小の6年生は救急救命法ができる どうしても助けたい人がそばにいるなら、他人に頼らず、自分の持っている技術で動いてほしい。
- ・もちろん、自分の身の安全が一番だし、もし、命を救う事が出来なかったとしても、助けようとした自分の気持ちや行動を褒めてあげてほしい

5F

- ・面会室の床にぎっしりと負傷者

- ・死にゆく人、(おじいさん) モニターのハートレートがおち、呼吸停止 原因を調べることができない
家族もいない 名前もわからない 助けられない 手を握って亡くなるのを看取った
亡くなった場所、時間を書いて (ドクターの役目)、手に握らせ、シートで包んで人の合間を抱えて運んだ
後で、家族がこの人と対面したとき、一人さびしく死んだのではなく、誰かがついていてくれたということが分かれば、家族の救いになるのではないかと思った
- ・病院では3日間で93名の方が亡くなった (朝来小学校6年は68名)

考えて1

あなた以外の家族全員が家の下敷き 一人が助け出されたとき、付き添って病院に行くか、残って他の家族の救出を手伝うか?

- ・あちこちで人が死んでいく 病院の端が遺体安置所 付き添う家族は少ない
(他の家族を探しているのか、それともみんな下敷きになったままなのか)
- ・病院で亡くなった方は、眠ったような表情 病院では、ドクターが出来る限り、痛みや苦しみをとりのぞいてくれる 手を胸の上で組む (看護師が手伝う)
- ・災害時、そうではない方も多かった。
- ・看護学生寮が潰れた 3人生き埋め 一人、助け出されたが、あとの二人は声がしないからとすぐには救出してもらえなかった。
- ・二人は5Fに運ばれたが、亡くなっていた 苦痛にゆがんだ顔、手は宙をつかむようにのぼされたまま死後硬直していた 顔は血だらけ、拭いてあげたくても水がない アルコール綿で少し拭いた 顔の傷を縫ってあげてほしいとドクターに頼んだが、時間がなくできなかった事が心残り
- ・亡くなった後、火葬場で焼かれた骨は、白い
- ・火災現場では、骨になるまで焼けていない、生きたまま建物に挟まれ、焼かれた人も多かった

2010年朝日新聞より抜粋

①「かけつける友の住まいは崩れおり、生き埋めの友に我は無力」がれきから友人の腕が見えた。引っ張ると肉がずり落ちた。黒焦げだった。火葬場がいっぱいで六甲山で木を拾い、田んぼで火葬した。

②海運町2丁目。路地で、男性が叫んだ。「殺してくれ。包丁で死なせてくれ」首から下がガレキに埋まって動けない。爆発音をあげながら火が三方から襲ってきた。助け出そうとしていた男性はたじろいだ。「そんなことでけへん、でけへん」火の勢いが強くなった。誰かがミネラルウォーターのボトルの栓をあげ、男性の目の前に置いた。そして、みんな逃げるしかなかった。

亡くなった人の姿はむごたらしく、人目にさらしたくない

考えて2

あなたは毛布を一枚持っています。外に寒さに震える人と、亡くなった人がいます。どちらに毛布を掛けてあげたいか? 亡くなった人が、自分の家族だったら?

考えて3

あなたは大人になりました。家族の無事を確認した後、のこぎりを持って、家の下敷きになっている人をたくさん救出しました。ある火災現場で、足を挟まれている人が、「自分の足を切ってくれ」と言います。あなたはその人の足を切ることができますか？（本当にあった話）

足を切る事はできず、逃げるしかなかった。そのままの姿で焼け死んでいた（助けられなかった人の心にも大きな傷を残しました）

話は変わって、

毎年10月 上富田ふれあいルームで避難所宿泊体験をしている。

暑くも寒くもない時期を選んでいる

- ・阪神淡路大震災は、1月17日の真冬
- ・2007年、7月16日の新潟県中越沖地震は真夏
- ・東日本大震災は3月11日 3月といえど、東北は寒く、雪がちらついていた。津波にのまれてなんとか助かったけど、濡れたままの服で何日も過ごした人もいる

避難所にはいろいろな人が集まる

災害時に支援が必要な人…災害時要援護者（災害弱者）

- ・障害者
- ・傷病者（体、心、精神）
- ・高齢者
- ・乳幼児

自分は違うと思ったかもしれないけど

- ・そういう人たちのお世話をするために付き添っている人
- ・妊婦
- ・外国人、旅行者

必ずしも支援する側とは限らない。自分が要援護者になる可能性もある。

避難所宿泊体験では

- ・段ボールと古新聞だけで寝る（子どもはバスタオル2枚使用可）
- ・私は車いすの上で寝てみた（障害のある人が床に降りると自分ではトイレに行けなくなるため、2週間車いすの上で寝た）
- ・一人あたりの避難所のスペースは1.1～1.7平方メートル（新聞紙3枚が約、1.3平方メートル（16時間で2リットル、24時間なら3リットル、プラストイレ最低13リットル）
- ・飲んだお茶571ミリ $\frac{1}{2}$
- ・使った水（料理、洗面、手洗い、風呂なし）1, 4リットル
- ・風呂なしで約2 $\frac{1}{2}$ の水使用（24時間なら3リットル）
- ・トイレで流している水だけでも、最低一人13リットル使っている（全員小として。日本のトイレは、大8リットル、小6リットル）

考えて4

トイレで大の後、紙がなかったら？（手で拭き、壁になすりつける、砂で拭く）

何とか拭けても水が流れなかったら？（ティッシュ、新聞で拭き、隠す）それらが積みなって山になる（きたない）

簡易トイレは、夜は暗い、テント式中で懐中電灯をつけると丸見え。

寒い、暑い、臭い、狭い、使いにくい…段差、滑る、体の不自由な人は？

阪神淡路大震災で亡くなった人の死亡原因の 80 パーセント以上は崩れた建物や家具の下敷きになったこと

東日本大震災では、92 パーセントの人が津波にのまれて水死した

亡くなった 6434 人（直接死 5502 人、間接死 932 人、孤独死 629 人 2006.1）のうち約 1000 人（932 人）の震災関連死（震災の影響で、体調を崩すなどして死亡した人）の原因の多くは、トイレに行くことが不自由で、行きたくないために、食わず、飲まず、脱水になり、血管が詰まり、心筋梗塞や脳梗塞、エコノミークラス症候群（長時間座り続けたため、下肢の血管に血栓ができ、それが肺に詰まる。咳、胸痛、血痰、時にショックにより死亡）で亡くなったと言われている。だから、自分のトイレは何かしよと言いたい

東日本大震災では（H24/3/11 のデータ）死者 15854 人、行方不明者 3155 人、合わせて 19009 人。

震災関連死は 1354 人。（2303 人）自殺死は 56 人。（151 人）復興復興工事に従事し、労災で亡くなった人 25 人。今はもっと増えている

今、子どものあなた達にできることは何か？

- ・家を丈夫な家に建て替える…無理
- ・高台に引っ越しする…無理
- ・家の耐震診断を受け、必要なら、耐震補強…無理
- ・家具の固定…家族の協力できるかも
- ・寝る場所を安全な所に変える…自分でもできる
- ・安全な場所を知る…できる
- ・10円玉を持っておく…できる（公衆電話は 100 円玉、カードが使えなかった。ケータイがあるなら、充電方法を確保した方がいいと思う）（音声の電話よりメールの方がつながりやすい）
- ・寝室に靴と懐中電灯（電池）の準備…できる
- ・家族の避難所、落ち合う場所の確認、県外の親せき宅へ TEL すること、171 の使い方を知る）…できる

- ・家族との連絡の取り方（171 の使い方）

体験利用提供日

- ・毎月 1 日, 15 日 00:00~24:00
- ・正月三が日（1 月 1 日 00:00~1 月 3 日 24:00）
- ・防災週間（8 月 30 日 9:00~9 月 5 日 17:00）
- ・防災とボランティア週間（1 月 15 日 9:00~1 月 21 日 17:00）
（固定電話の番号を入力する）

夢で、地震で 2 階がつぶれて、隙間から窓へ向かうが、鍵に手が届かず出られない

（金づちを準備して、次の夢、来るなら来い！と待ち構えている）
…次は夢ではなく、本当の地震かも

その時、子どものあなたにできることは何か？

- ・危険な事はしない
- ・家族、隣近所の安否確認、声をかける（神戸では餓死者が一人いた）
- ・東日本大震災では、80 歳の女性と 16 歳の孫 9 日ぶりに救出された
- ・災害時要援護者への気配り、声をかける（年配者、障害のある人

ほど、迷惑になってはいけなから、と困っていること、苦しいことを言わないことが多い)

- ・たとえば、食物アレルギーのある人が、配られた食べ物を食べられなくても、「こんな時に自分だけ、別のものにしてほしいとは言えない」と思って、黙っている人もいるかもしれない。
- ・自殺が 56 人。人の命は人でしか救えない。目の前の事で一生懸命な大人より、みんなの方が気づいてあげられると思う
- ・書き留める（気持ちが落ち着く、忘れない、元気になる、元気を与える）…私も毎日日記を書いた
- ・東日本大震災では、子ども達を書いた手作り新聞が多くの人に勇気と希望を与えた

あっそ児童館の「上富田ふれあいルーム」では、「衣・食・住・災害時要援護者への配慮ができる」ことを目標にして、防災学習をしています。

「困っている」と自分で言える人はまだいい。

本当に困っているのは、言えない人です。

「聞こえない人」「見えない人」「言葉の分からない人」「他の障害のある人」「見た目には普通だけれど、実は障害や病気のある人」

英語や手話で話しかける練習もしていますが、日本語でいいから、「何か困っていることはあるませんか?」「何かお手伝いしましょうか?」と聞いてあげてください

何の返事もなければ、あなたの言葉が伝わっていない、情報がその人には届いていないということです

そういう人を見つけたら、大人に知らせてほしい

いろんな方法で情報をやり取りする方法はあります

それが出来たら、その人は「災害時要援護者」ではなく、「手話ができる人」「点字が書ける、読める人」「英語が話せる人」「同じ病気や障害のある人の気持ちや必要な物が分かる人」として、心強い仲間になってくれるでしょう

「釜石の奇跡」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？津波の被害を受けた釜石小学校は学校管理下における子供は一人の犠牲者も出さなかった。それは、日頃から片田先生の言われたとおりに ①想定にとらわれるな ②最善を尽くせ ③率先避難者たれを守って行動したから。

上富田には津波はこないと言われている。本当にそうか？H23、9月の台風 12 号の時、上富田町があんなに水につかってしまうなんて想像していたでしょうか？後で想定外の津波が来たと言われても遅い。(和歌山県だけでも、死者 52 名、行方不明者 5 名)

釜石で一番多くの人々が亡くなったのは、ギリギリ津波はこないと言われていたエリアの人々でした。上富田もそうですが、絶対に津波が来ないと保証してはくれない。私の家は上富田の中では海に近く低い所にあるので、田辺に避難指示が出たら、高台に避難すると決めている。

みんなにメダルをくれた上富田の町長さんも、「上富田町への影響が有る、無いに関わらず、どんな災害に対しても避難することが一番と思っています」と言われている

最初に逃げ出す人はかっこわるいでしょうか？そうではなく、最初に行動できる人はかっこいいのです。まずは自分が逃げる勇気を持つ。そうすれば、他の人もついてくる。結局はそれが多くの人の命を救う

上富田は、津波の被害は今までになかったけれど、水害には何回もあっている。この場合も、水が来る前に高台に避難するのは同じ

地震と違って、台風が来るのは天気予報である程度は分かるのだから、「前も大丈夫だったから、今回も大丈夫だろう」と思いこまずに、しっかり、情報収集して備えて下さい

避難所に避難しても、水害がなかったらなんて思う？

大人は多分「なんなよ、わざわざこんなところまで来たのに、なんもなかった。無駄足踏んだわ」こんな風に言うでしょう

子どもの皆さんにはぜひ、言ってほしいことがある

「水害がなくて本当に良かった。次もまた、こうやってここに集まろう。そうすれば、本当に水が来ても、みんな助かるから」

大人たちに聞こえるように言ってやってほしい

子どもの持っている大きな力だと思う。

30年以内に、60～70%の確立で、東南海、南海地震がくると言われている。

東日本大震災と同じ、プレート型地震のため、津波の被害が大きい助けが長い間来ない

かもしれない（食べ物、水、トイレの準備 電気が復旧するまで1週間、ガスは1か月、水道は3週間、電話は2週間）

便利なものに慣れすぎているが、いざ、何にも無くなってしまったときは、他の物で代用する事も考える

毎日、忙しい、勉強、食事の準備、仕事、…生きていれば必要

こうすれば大丈夫という答えはないけれど、生きるために必要なこと、生き残った時、何が必要か、を考える時間、準備する時間、を少しだけ作ってほしい

私に最初の女の子が生まれ時、白いおくるみを作った。それで、赤ちゃんを抱いたとき、あの時、病院で、白いシーツで包んだ亡くなった子どもを抱いているお母さんの姿を思い出した。2人目の男の子が生まれた時も思い出し、自分の子どもは絶対にあんな目に遭わせたくないと思い、防災士の資格をとった

夕食を食べながら「171って知ってる？」とか、「家がつぶれたり、火事になったりしたら、〇〇に避難しとくから。あの道を通っても大丈夫かな？」とか、「どうしても電話で連絡が取れなくなったら、大阪のおじさんのところにお互いに電話しような」とか、さっそく今晚からでもできることを実践して、自分の家族は自分が守るという気持ちを持ってほしい

大人にとって、子どもが一番大切。子どもの君たちが親や、おじいちゃん、おばあちゃん、近所のおじさん、おばさんに防災の大切さ

	<p>を伝えることが、みんなの家族を守るだけでなく、朝来地域、上富田地域を災害から守る大きな力になると信じています。</p> <p>工作</p> <p>話の中にも出てきたように、大きな災害時には、水が使えなくなり、そのため、水洗トイレが流せなくなるということが起こります。</p> <p>そんな時に、役立つ、新聞トイレと一緒に作ってみようと思います。</p> <p>作り方を忘れたらどうする？ 忘れてもいい。災害時に、みんながこの作り方を知っていて、材料を準備していたわけじゃない 忘れたら、新聞を突っ込むだけでもいい、いらぬ布に吸わせてもいい、ペットボトルにためておいてもいい、浄化槽に囲いをつくってもいい、畑に穴ほってもいい</p> <p>新聞トイレはいくつもある中の一つの方法です。〇〇がないとできないじゃなく、あるものを工夫して、乗り切る力を身に付けてほしいと思います。</p> <p>もう一つ、寒さを防ぐ物の一つとして、ゴミ袋で、レインコートを作りましょう。 ハサミがなくても、手でちぎって作ることもできます 雨が降っても、頭まで守ることが出来て、暖かいので、是非、覚えておいてください</p> <p>頭と手を出す穴をあけてかぶって重ね着しても結構あったかいです</p>
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<p>マイトイレ作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古新聞(尿取パット、袋、ティッシュは、全員には配らない) <p>ゴミ袋のレインコート作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 45 リットルゴミ袋 ・ それぞれでハサミ持参
<p>参加人数</p>	<p>朝来小学校 6 年生 68 名</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>必要物品は朝来小学校が準備してくれる</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】 いつもの語り部の内容に加え、時間を長めに頂いたので、「トイレ」と「防寒」に使える工作をする 阪神淡路大震災からちょうど 20 年、語り部を初めて 5 年目。児童館に来てくれていた子どもたくさんいる中で、最後に「私が防災教室をしていた理由」をわかってもらえると思う</p> <p>【課題】 短い時間の中で、どのように伝えるべきか、毎年考え直しているが、これで良いと思うものができない 上富田で起こる可能性の高い災害である洪水について、もっと伝えたいが、こちらは被災体験がないので、語り部はできない</p>
<p>成果物</p>	<p>マイトイレ、ゴミ袋のレインコート</p>

【実践プログラム番号：チャレプラ番外編】※3

タイトル	安否札・手ぬぐい 贈呈式
実施月日（曜日）	平成 27 年 2 月 6 日（金曜日）
実施場所	朝来小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	30 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	その他学校内での時間 出前授業
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	自分達で作った「あっそ防災手ぬぐい」を朝来小学校全世帯に配布し、その使い方を「ふれあいルーム」の子ども達が説明する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>全校生徒（381 名）に、体育館に集ってもらう （手ぬぐいは、あらかじめ配布しておいてもらう・兄弟姉妹は、上の学年に配る）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区別に分かれてもらうことで、世帯ごとに集まる ・「上富田ふれあいルーム」の子ども達による、手ぬぐいの遊び方、使い方の説明（説明を書いた物も保護者向けに配布する） <p>安否札の説明</p> <p>今年度、防災教育チャレンジプランというところに、「こんな物を作りたいのでお金をください」と応募したら、いいですよと言われ、安否札と防災手ぬぐいを作りました。</p> <p>約 4 年前の東日本大震災のことを覚えている人もいます。あれから、地震や津波に対する備えや防災の大切さがあちこちで言われるようになり、テレビでも、新聞でも、学校でも、耳にすることが多くなりました。</p> <p>人は移動するので、いざその時、自分がどこにいるかで、何に気を付けなければいけないかはその時に判断しなければなりません。だから、防災の勉強は、どれも大切だけど、それでも、みんなが一番長い時間を過ごすのは、家、学校のある、この朝来地域だと思うので、朝来ではどういうことに気を付けるべきかということを知りやすく作ったつもりです。</p> <p>これらを作るのに、上富田ふれあいルームの防災エリートキッズ達が手伝ってくれましたので、みんなに説明をお願いしようと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、朝来（あっそ）さん家族の説明をします。 <p>お兄ちゃんの彦五郎君は小学 5 年生、妹の桜子ちゃんは、保育所の年小さん。</p> <p>ある日の放課後、彦五郎君は、朝来小学校から帰ってから、自転車でどこかに遊びに行っていました。</p> <p>お母さんと桜子ちゃんが、家にいると、大きな地震がありました。揺れが収まった後、小さい桜子ちゃんを連れて、朝来小学校に避難しました。</p>

ちょうど上富田中学校から帰ってきたばかりのお隣さんの三兵衛君は、朝来さんの伝言板を見て、彦五郎君を中学校で見かけた事を思いだし、伝言版に書きました。

彦五郎君は怖くて、どうしてよいかわからず、家に帰ってきてから、伝言板をみて、朝来小学校に行くことにしました。

災害時は電話が使えなくなることが多いです。なぜかという、多くの人や、家族が無事かどうか確かめようと電話を一斉にかけるので、警察や消防など、本当に大事な電話が使えなくならないように、ある一定以上の通話が発生すると、自動的に電話の利用を制限する仕組みになっています。

通話が集中することで電話が繋がりにくくなる状態を「輻輳（ふくそう）」と言いますが、1995年の阪神・淡路大震災では、輻輳が5日間も続いたそうです。

このように、電話で連絡が取れなくなった時のために、つながりやすい連絡方法としては、「災害用伝言ダイヤル171」や、携帯電話やパソコンなどの「災害用伝言板」や、メールなどがありますが、小学生の皆さんは、携帯電話を持っていない人の方が多いでしょうし、大人も、つい忘れてたり、壊れたり、充電がなくなってしまっただけで使えないということが、考えられます。

伝言板は最後の手段かもしれません。

でも、自分の家から避難する時に書いてドアにつるしておくことで、安否確認に来た人が、「この家族の人は無事に避難したんだな」とわかり、わざわざ家に入って確認することなく、他の人の安否を確認に行くことができます。

安否札には、避難する前に是非とも確認してほしい事が書いてあります。

でも、一分、一秒を争う、早く避難すべき時には、自分の体だけで、何も持たずに逃げてください。

命が一番大切ですから。

この伝言板の中に出てくる人の中で、「ちょっと危ないなあ」と思う人が一人います。

誰だか、わかりますか？

彦五郎君です。

彦五郎君は、上富田中学校から、いったん家に帰りました。家族や妹が心配なのはわかりますが、お母さんのモモ子さんは、家は危険と考えて、避難したのに、そこに帰ってしまったのは、彦五郎君の命が危ないと思うのです。

朝来さんの家族の人は、地震が起きる前に、どこに避難するべきか、話し合っておくべきでした。

そうすれば、彦五郎君はまっすぐ、上富田中学校から朝来小学校に向かったと思います。

みなさんは、こんな時、どこでおうちの人と集まるか、ちゃんと話をして決めていますか？

もし、朝来小学校なら、どこに行きますか？

私だったら、自分のクラスに行くと思います。

でも、私の子供たちはもう、高校生と中学生になってしまいました。だから、優先順位を決めています。

まず、1年1組、そこに入れなかったら、1年2組、と、言うように、順番に大きいクラスに行く決めてしています。

ただし、たとえば、先生が、「小学生以外は体育館に集まって」など、指示があれば、先生のいうことを聞くようにと伝えてあります。

朝来小学校は新しいので、大丈夫とは思いますが、たとえば、校舎も体育館もヒビだらけで、中に入るのは危険じゃないかと思ったら、ブランコの近くで集まろうとも伝えてあります。

三兵衛君は、自分は中学生だから、近所の人々の安否確認をしようと思ったのでしょう。
これも、必ずしなければならないというわけではありません。
自分の命が一番大切なので、「今すぐに逃げるべき」と思ったら、逃げるべきです

地震はいつ来るのかなあ？

それは、誰にもわかりません。ただ地震が来る時期にはある程度決まった周期があり、そろそろ来てもおかしくないと考えている専門家が多いのは事実です。

もう一つ、決まった周期で来ている災害がありますね。

何かわかりますか？

台風です。毎年、夏休みがおわった後くらいから、いくつか日本に上陸して、この和歌山は、わりとよく通るので、和歌山県の方は、台風には慣れてるように見えます。

みんなも、警報がでて、学校が休みになるとうれしくなったりしませんか？

ただ、これも、いつものやつだから大したことないと思っていると大変です。

3年半前の9月の紀伊半島大水害では、和歌山県で55名の方が行方不明や亡くなったりしました。

すぐ近くの熊野高校の生徒さんも亡くなっています。

津波の水も怖いけど、台風の洪水も怖いのです。

どのくらいの雨で危険になるのか？

場所にもよるのではっきりと何ミリの雨で危険とは言いきれないのですが、「50ミリの雨」と天気予報で言っていたら、かなり強い雨で、長い時間続くと危険です。

「前の台風が大したことなかったから、次も大丈夫」という、勝手な思い込みで、命をなくすことのないように。

大人は、避難して、被害がなかったら、「わざわざ避難するのに、何にもなかった、無駄足だった」と怒っているかもしれません。

でも、被害がなかったのだから、喜ぶべきとは思いませんか？

子どもの皆さんにはぜひ、そんな大人に伝えてほしいことがあります。

「水が来なくて本当に良かった。次もまた、こうやってここに集まろう。そうすれば、本当に洪水が来ても、みんな助かるから」

そういわれたら、「あ！そうか！」って思うでしょう。

みんなには、まだ大人ほどの力も経験もないかもしれないけど、こういうことを伝えてあげられるのが、子どもの持っている大きな力だと思います。

気が付いた人もいるかもしれませんが、この朝来さん家族の皆さんの名前は、上富田に関係のある名前です。

お母さんのモモ子さん…上富田町の木である、「ヤマモモ」

妹の桜子ちゃん……………上富田町の花である、「サクラ」

お兄ちゃんの彦五郎君…彦五郎公園で、人柱になってみんなを洪水から守ってくれている「彦五郎さん」

お父さんの救馬さん……………救馬溪観音の「救馬」

友達の三兵衛君……………昔、上富田の人が苦しかった時、それを助けるために命を懸けた人「三兵衛さん」

上富田の大切な所をみんなの名前にももらいました。

これを機会に、ヤマモモやサクラが、上富田の木や花なんだなあ

か、彦五郎さんや、三兵衛さんのことをもっと知りたいなあとか、「救馬溪観音」と「彦五郎堤防」は昨年8月に、南紀熊野ジオパークに認定されたので（科学的に見て特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を複数含む一種の自然公園）他のジオパークにも興味を持ってもらえたら嬉しいです。

次は、手ぬぐいの使い方の説明をします。

この中には下から「連絡先」「大切なこと」「これを見せて聞いてみよう」「遊び」を取り入れました。

「大切なこと」
自分にとって大切なことはなんなのか？
そういうことが分かるように作ったつもりです。
みんなを洪水から守ってくれている彦五郎さんからのメッセージも、手ぬぐいに書いてみました。

「これを見せて聞いてみよう」は、人が生きるために伝えたい最低限のことを伝えられるように、ひらがたと漢字だけでなく、絵や英語で表してみました。
外国語については上富田には外国の方は少ないので、ひらがたと漢字と英語での表記があれば、大丈夫かなと思いました。
これで、漢字が読めない子、日本語が分からない外国人、障害、病気のために会話が難しい人とも、ある程度の意味疎通を図ることができます。

一番上の「遊び」は、この小さなスペースの中で5つのゲームを楽しむことができます。
鉛筆と紙があるだけで、1人から数人まで遊べます。
この中には、仲よくするための自己紹介や握手、避難所で起こりやすい、エコノミークラス症候群を予防するための「身体を動かす」こと、肺機能の活性化（肺炎の予防）や気持ちを落ち着かせることにも有効な「声を出す」こと「丹田呼吸」も入っています。
改めて言うまでもありませんが、私は「遊び」はものすごく重要なものだと思っています。
辛い時だからこそ、遊ぶ、笑う、ゲームの指令ではあっても、体を動かす、声を出すことは心だけでなく身体の健康を取り戻すためにも必要です。
遊び方は、先生にも伝えておきますので、分からなかったら聞いてくださいね。
「マンカラ」は「あすなろっこ」（学童保育）がきっと知っていると思います。

手ぬぐいって、ただの布だけど、実はいろんな使い方があります

- ・マスク
- ・ひも（裂く）
- ・帽子（本を頭にのせてかぶるとヘルメット）
- ・はた
- ・フィルター
- ・包む（ペットボトルホルダー）
- ・けがをしたときの傷の手当
- ・石を包めばハンマー
- ・普段使いのハンカチとして
- ・首に巻いて汗拭き or 防寒に

これを持って帰って、そのまま大事にしまって、いざという時にどこにあるのか分からないのでは、役に立ちません。
ぜひ、おうちの方と一緒に一回読んでみてください。

それから、どうやったら、みなさんの身近にこの手ぬぐいを置いてもらえるだろうかと、考えて、あずま袋、手提げ袋、リュック、巾着を作ってみました。

縫うのではなく、両面テープで留めているだけなので、簡単に作ることができます。(両面テープは、透明フィルム 強力タイプ 手で切れないものがおススメです。その方が、手ぬぐいに戻すとき、一気にはがすことができます)

はがれやすい所だけ、4か所安全ピンで補強しています。

ループエンドをつけるとかわいいし、安全ピンで下の方に止めるとリュックになります。

体操服を入れる袋にしてもいいし、エコバッグとして、お買いものにつかってもいいし、

手ぬぐいのみまでも、毎日のお弁当を包んだり、夏に凍らせたペットボトルのお茶を持ってきているなら、このように、持ち手付きのペットボトルホルダーを作ることができます。

もちろん、ハンカチの代わりに使ってもらってもいいですよ。(ちょっと大きいかな)

他にも、大事なものをまとめて、避難袋を作ったら、手ぬぐいも一緒にくくり付けておくとか、これを避難リュックにすれば、既に、安全ピンとひもと両面テープと手ぬぐいがこの中に入っていることになります。

作り方は先生に渡しておきますね。

これらが、役に立つ日が来ないことを祈っています。

でも、もし来てしまったのなら、役立てばいいなあと思います。

いつか、朝来、上富田に、大きな災害があっても、一人も、誰も死ななかった！

「すごい、これは、朝来小学校の児童ががんばったからだ」

と言われるようになってほしいです。

手ぬぐいの遊び方

①IQ 診断 (1人) …コマ 14個

- ・一番上以外の○にコマを置く
- ・1つのコマを飛び越えてコマを置く
- ・飛び越えられたコマは取り外す
- ・飛び越せるコマは1つだけ
- ・最後にコマが残った数が少ないほど IQ が高い！

②マンカラ (2人) …コマ 30個

- ・自分と相手のそれぞれ5つのますにそれぞれ3個のコマを置く
- ・じゃんけんで勝った方から自分のますのコマを時計まわりに一つずつ置いていく
- ・最後のコマがゴミ箱に入ったら、もう一度置くことができる
- ・自分の5つのますにコマがなくなった方の勝ち

③じゃんけん指おさえゲーム (2人)

- ・じゃんけんで負けた人は勝った人に指定された○にもう片方の手の指を置く
- ・指が置けなくなるか、指が足りなくなった方が負け

	<p>④鉛筆イベントゲーム (数人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心の○に鉛筆を立てて、倒れたところに書いてある指示に従う <p>⑤すごろく (数人)</p> <p>サイコロの作り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 六角の鉛筆の面に 1~6 の数字を書く ・ 2~6 枚の紙の裏を表にそれぞれ 1 と 0 を書き、紙を落として合計をサイコロの目とする
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	「安否札」と、使い方 「あっそ防災手ぬぐい」と、使い方
参加人数	朝来小学校全校生徒 (381 名) + 先生
経費の総額・内訳概要	手ぬぐい 400 枚 120744 円
成果と課題	<p>【成果】 自分達で作った「安否札」「あっそ防災手ぬぐい」を、朝来小学校全世帯に配布し、遊び方、使い方を説明することで、責任感、自信、リーダーとしての心構えができる。</p> <p>【課題】 バッグとして日頃から使えることの説明もするが、伝えるだけでは、自分で作り上げることはできないだろう。もう少し、時間があれば良いと思う。 ふれあいルームの子ども達だけでも、普段に使ってくれたら、良い啓発になると思う</p>
成果物	なし



4. 苦労した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦労した点工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でプランを立案することは自分の都合の良い時に時間が取れるので良かったが、ひとりよがりになってしまっている事も多数あったと思う。 ・1か月以上前にはプランの概要を計画し、必要な物を書きだしたことで、早めの準備が必要な物などが把握できた。 ・早めに立案することで、ふれあいルームの後の時間に安全監理員と相談することが出来て、良かった。 ・今年は登録者が少なかった（20 数名）ので、この中から、いかに多くの子ども達に参加してもらうかは、予告チラシにかかっていたため、楽しそうでも、また予算内で、可能な限り、食べ物を使って呼び寄せた。（調理室がないので、その不便さも防災には役立ったかも）逆に子どもの人数が増えすぎても、実践が困難になる。10 数名くらいが一番やりやすい。 ・自由参加で毎回参加者が変わること、次回を続きにすることや、何回かに継続した活動の実践が難しいため、時間の調整が必要。 ・2時間では出来そうにない時は、半日、1日かけてなど、柔軟に対応してもらえたので良かった。
<p>準備活動で苦労した点工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「サバメシ」は、手が痛くなるので一度にたくさん作ることはできないので、大人で分担して作った。 ・参加人数が当日まで分からないので、準備物の量（特に食べ物）の見当をつけるのが難しかった。 ・宿泊体験の準備は、約1週間前から少しずつ運び込んだ。段ボールはあちこちからかき集め、鍋や菜箸、食材など、直前でなければ用意できないものもあるが、5回目でもあったので、大分要領がよくなってきたと思う。 ・「七草粥」は、毎年他の講師がやってくれているが、今年は、「食べられる野草」の勉強をするために、合同でふれあいルームを開いた。実物を目にして、食べた後の学習と結びつけることで、より、身近で分かりやすかったと思う。 ・野外で行うものは、天候との兼ね合いがあり、実践不可能になった場合は、代替えプランを準備しておかなければならなかった。
<p>実践に当たって苦労した点工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の持っている物だけでは足りない時は、事前に安全監理員にも協力して、持ってきてもらった。（かき氷機や氷など） ・子ども達がなかなか話を聞いてくれず、進まない時があった。 ・大人は当たり前知っていることでも、子どもにとっては知らないことがたくさんあるので、学校では教えてもらえないことができるようになってほしい。 <p>(例①：マッチを擦ったことのない子どもが多かったが、いったん擦れるようになると、楽しくて止まらなくなったり、簡単に燃えるものに火をつけようとする子がいて危険)</p> <p>(例②：はがきを書く機会がないためか、宛先を書く場所も書き方も知らず、自分の家の郵便番号、切手の値段も知らない子どもが多かった)</p> <p>(例③：以前の屋台での、お客さんとお店とのやり取りでは、タコ焼きやソーセージを爪楊枝に刺してわたすのに、刺してそのままわたそうとする子がたくさんいて（下向きのまま）、そのため、床にいくつも落としていた。上に向けてから渡すということが分からないのだと思った)</p> <p>(例④：以前の避難所宿泊体験で、トイレの前に張った紙に「トイレに行ったら、正の字を書いてね」と説明した。途中で、あまりに回数が多いと思って確認したら、1回につき正の字一つ書いている子がたくさんいた)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、テレビ、ラジオ、新聞の取材があり、緊張感の中で実践した物も多かったが、子ども達には、本気で一生懸命に取り組む姿が見られ、モチベーションを高めるのに、非常に良かった。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	朝来小学校	安否札・手ぬぐいのを全世帯へ配布、説明 語り部、防災教室の開催 上富田ふれあいルームの実践全般 安否札・手ぬぐいの贈呈 H26. 10月11日～12日の取材（避難所宿泊体験） 地域の防災マップが完成したら分けてもらえるようお願いした。安否札・手ぬぐい贈呈 安否札・手ぬぐい贈呈 安否札の情報を提供していただいた。安否札・手ぬぐい贈呈 語り部、防災教室の依頼あり（H27. 1. 30 予定） 安否札・防災手ぬぐいの配布
	上富田町教育委員会	
	上富田町長 和歌山県教育委員会	
	熊野高等学校	
	上富田中学校 新庄中学校	
	安宅小学校	
	朝来第一保育所	
保護者・ PTAの組織	上富田ふれあいルーム登録者の保護者	保護者の参加、171 事前録音などの協力 安否札・手ぬぐいの使い方説明用紙を配布
	朝来小学校の保護者	
地域組織	和歌山放送ラジオ	ラジオ番組「定期便 教育の窓」避難所宿泊体験の様子をH26. 11月22日に放送 ラジオ番組「待ったなし防災」今年度の活動・インドネシアの震災遺構・来年の目標（H27. 1月2月放送） H27. 1月14日「皆が助かる道探したい」というタイトルで取材が掲載された 上富田町長へ安否札・手ぬぐいを贈呈するときに取材に来てもらう予定
	FM 白浜ビーチステーション	
	紀伊民報	
国・地方公共団体・ 公共施設	牟婁さくら園	H26. 11月1日「ぼうさい探検隊」の時に取材させて頂き、いざというときはお互いに助け合えるような交流ができた。安否札、手ぬぐい配布 手ぬぐいの交換。安否札送付
	おぢや震災ミュージアム そなえ館	



<p>企業・ 産業関連の組合等</p>	<p>テレビ朝日</p> <p>一般社団法人 日本損害保険協会</p> <p>毎日新聞</p>	<p>防災の日特集で「手作りかまどでクッキング&デイキャンプ」を取材。H26.9月1日に「防災エリートキッズ」として放送された第11回「ぼうさい探検隊」マップコンクールに「あっそ防災きつず in ふれあい」を応募</p> <p>「ハロウィンパーティー」の取材を H26.11月4日「年中行事で防災について学ぶ」というテーマで掲載</p> <p>H27.1月12日「ぼうさい甲子園授賞式の様子掲載</p> <p>H27.1月17日子ども達に宛てた手紙掲載予定</p>
<p>ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等</p>	<p>「防災腹話術」研究会</p> <p>H26 年度ぼうさい甲子園</p>	<p>H26.12月13日「防災教育の新しい風」セミナーにゲストスピーチとして幾島が参加</p> <p>H27.1月24日ふれあいルームで上演して頂く予定</p> <p>ボランティア賞受賞</p>
<p>職業、職能団体・ 学術組織、学会等</p>		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育チャレンジプランのような企画があることはプランを進め、他と連携を図ることに非常に大きな力となった。 ・近くでも全く接点のなかった「傘婁さくら園」との交流ができた。 ・採択条件が新庄中学校と連携を図ることだったので、この機会に情報を頂くきっかけができた。また、先輩として参考にさせて頂く所が沢山あった。 ・子ども達が明らかに防災に関心を持ち、積極的になった 取材の時の子ども達の言葉から、「いつも親に頼ってばかりではいけない」「自分達にできる事をやろう」「助けられる人ではなく、助ける人になりたい」という言葉を聞くことができた。 ・繰り返すことで、自信が付き、自主的に動くようになった 避難所宿泊体験では、同じ内容ではなくても、参加年数が長いほど、てきぱきと大人に言われなくても動けるようになっている。また、初めての参加者に積極的に教える姿も見られる。少しずつでも、子ども達の自信になっているのではないかと思います。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携は十分に取れたと思うが中学校とはほとんどなかった。日中地元にいる中学生は災害時に最も頼りになる存在なので、もっと交流できればよかったと思う。 ・地域の住民とのつながりも少なかった。私も主人も地元ではなく、ロコミで広げるというのが難しかったという理由もあるし、参加者が増えすぎても実践が難しくなる。しかし、保護者である安全監理員は非常に協力的で、これからも協力してくれる、理解ある友人になれたと思う。 ・覚えてもらうためには繰り返しも必要。しかし同じことの繰り返しでは飽きてしまうのではないかと思っていたが、年々手際よくうまくできることに喜びを感じているように見えた。また、少しずつでも変化をもたらすことで、(例：マイトイレ→ダイパーケーキ→ダイパーショートケーキ→ダイパークッション) 新しい使い道などの発見もあった。 ・子どもの考えが主体となった活動メニューの開発は、今年度は時間が足りなかったが、一昨年子ども達の提案で行った「お化け屋敷」では、「新聞パーティション」を利用して仕切りや通路を作っていたので、その方法を避難所にも使えることを伝えた。 ・達成感はあるが、点数をつけるなら、75点くらい。チャンスがあれば、季節にマッチしたプランをもう一年やってみたい。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、防災教育チャレンジプランに採択されたこともあって、防災と分かりやすい表現、方法で、実践した。 しかし、地球温暖化防止活動推進員として、子ども達に温暖化を防ぐための方法を伝えたり、地産地消がエネルギーのロスを減らし、地域の生産や雇用を増やし、結果的に地域の活性化や食料自給率を上げる事なども伝えたい。食品加工や植物を育てることも知ってほしい。海外の様々な日本とは異なる常識を知ること、これからのグローバルな社会生活には必要だと思う。 ・近くの人同士が仲よく元気に、遠くの人同士も仲よく元気に、与えられるものだけでなく、自分の力、仲間の協力で生きていくこと、こういうことが、すべて助け合い、防災につながっていると思う。 ・「防災は特別なものではなく、当たり前のもの」この言葉をモットーに、今後も、「防災」とは言わなくても「生きる」事につながる遊びを実践していきたい。 ・上富田町消防訓練への参加。子どもにもできる防災工作の体験ブースを作り、ふれあいルームの子どもが先生になれたらいいと思う。 ・他の多くの地域から、情報が欲しいと言われているが、パソコンが苦手なため、きちんとした冊子を作ることはできそうにない。しかし、これまでの交流から、協力していただいただけそうつながりもできたので、そちらと連携を図り、他の所でも、どんどん活用してもらえようようにしていきたい。



7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

中間報告会で、他の学校の取り組みに感化されて、後半になってからプランを増やしたため、時期外れのプランがたくさんある。

それらを修正して、正しい季節に合わせたものが、自由記述2枚目の

「上富田ふれあいルーム防災年間計画！ 完成版」である。

3枚目には、これらのプランを実践すれば、どのような学習ができ、効果が得られるかを

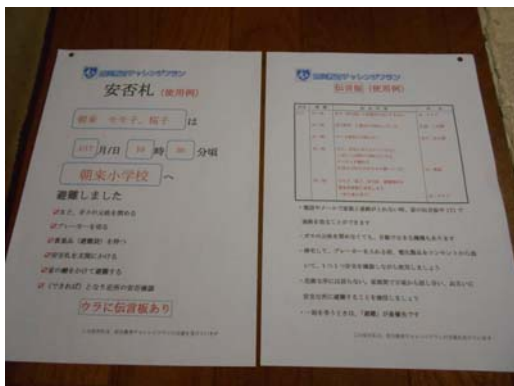
「衣」・「食」・「住」・「災害時要援護者への配慮」「その他」に分けて記載した。

他にも、「こんな防災を遊びに組み込んでみたい」とか、「こんな遊びの中にはどんな防災が組み込めるか」というご意見があれば、教えて頂きたい。今後も、新しい「遊びの防災」を考えていきたい。

個人的活動

- ・毎年1月17日前後に、朝来小学校6年生への阪神淡路大震災の語り部（平成23年度より）と今年は、白浜の安宅小学校から依頼がきている。（1月30日予定）
- ・「はまゆう」という随筆の冊子（年2回発行13回目）に阪神淡路大震災から数日間書いていた日記を掲載している。
- ・医療者として次の大規模災害時に役に立てるナースになるために、「救急救命士」の資格を取り、「災害支援ナース」の研修を受けた。
- ・今後は、物がなくても工夫して、医療的な処置、たとえば吸引が必要な人に、ペットボトルを利用した吸引器を作り、処置が行えるような方法を考えていきたい。

安否札



あっそ防災手ぬぐい



(自由記述: 1/3)



上富田ふれあいルーム防災年間計画！ 完成版 朝来（あっそ）児童館

- 4月・みんなでお花見 上富田ジオパーク探検（彦五郎公園・救馬溪）
 ・「プロジェクトD」どんぐりの里親になって被災地の復興を応援しよう
 ・ハッピーイースター&サバメシ（サバイバル飯炊き）でゆで玉子作り（イースターエッグ）
- 5月・被災地を忘れない「プロジェクトD」「福島ひまわり里親プロジェクト」と「ひまわりの夢企画（神戸のひまわり）」
 ・こどもの日だ！燃えろ！ファイヤー！身近な物で火起こし体験 Part①（太陽光を使用）
 ・こどもの日だ！燃えろ！ファイヤー！身近な物で火起こし体験 Part②（その他を利用）
- 6月・雨なんてへっちゃら！ゴミ袋でレインコートを作ろう
 ・ジメジメライラを吹っ飛ばせ！大声コンテスト！（防災に関連した言葉を叫ぶ）
 ・夏至の夜は、家の電気を消して手作りキャンドルナイトで過ごそう（子どもエコクラブ）
- 7月・七夕の短冊にメッセージを残そう（避難所でのメッセージの貼り方、書き方について考える）
 ・手作りかまどでクッキング！&デイキャンプ（竈はブロックで作る。ブロックは、花壇の枠組にする。ハイゼックス炊飯袋使用、みんなで協力してテントを建てよう）
 ・暑中お見舞いカードと安否札を作ろう
- 8月・夏だ！水遊び！ゴミ箱でバケツリレー&水鉄砲合戦！
 ・ダイパークッション（マイトイレ）と防水マッチ作り
 ・お化け屋敷で涼しくなるぞ～（新聞パーティーで間仕切りを作る）
- 9月・お月見団子を作ろう（家にある粉類を使って団子などを作る。どんな食べ方が美味しいかな？）
 ・出張減災教室（起震体験車による地震体験・地震、津波についての基礎講座）
 ・「稲むらの火の館」見学（一日かけて）
- 10月・避難所宿泊体験（一泊二日）
 ・ハロウィンパーティー（指令に答えればお菓子がもらえる①地震の後近所の安否確認ができる②安全カードを書くことができる③緊急時の音を聞き分けることができる）
- 11月・ぼうさい探検隊（ぼうさいマップ作り）…近所の施設との連携をはかる
 ・秋祭りだワッショイ！あっその防災手ぬぐいを作ろう①（手ぬぐいの使い方を知る）
 ・秋祭りだワッショイ！あっその防災手ぬぐいを作ろう②（英語で屋台の買い物をする・英語と手話で「何かお手伝いすることはありますか？」と声をかける）
- 12月・サンタの袋（非常持ち出し袋）には何が入っているのかな？
 （持ち出し袋の中身を考えたり実物を見てみる。お楽しみのクリスマス会もあるよ）
- 1月・七草粥を作って食べる（その他の食べられる野草を知ろう）
 ・新しい年の始まり、家族に感謝の言葉を171で伝えよう（実際に伝言を入れてみる、また、家族からの伝言を聞く。災害時の子どもの引き渡しについて保護者へ連絡する）
 ・「防災腹話術」荒井勲氏
 ・手ぬぐい・安否札 贈呈式
 ・キミは人気者！バンダナマジックを覚えよう（手品だけでなく、バンダナ、三角巾、風呂敷を使った応急手当の方法を学ぶ。風呂敷でエコバッグ、リュック、ポンチョを作る。バンダナで帽子を作る）
 （・朝来小学校の児童に「安否札」と「あっそ防災手ぬぐい」の使い方の説明、配布）
 （・朝来小学校6年生に阪神淡路大震災の語り部として話をする…幾島）
- 2月・節分「正常化のバイアス」を追い払おう
 ・カンパクッキング！カンパでバレンタインのお菓子を作ろう（デコペンでかわいくデコレーション・カンパピザ等）
- 3月・ひな祭りのないないクッキング 「ひし餅型のお好み焼きを作ろう」（包丁がない、まな板がない、コンロがない、食器がない、無事に食べることが出来るか？）
 ・お疲れ様会（反省会）…防災教育チャレンジプラン全27回中何回参加できたか？表彰式

(自由記述：2/3)



「衣・食・住・災害時要援護者への配慮」ができる

衣…ゴミ袋のレインコートを作ることができる(6月①) 毛布でガウンの作り方がわかる(10月①) 買い物袋を使ったおむつの作り方がわかる(10月①) 新聞やラップを使って寒さを防ぐことができる(10月①) 新聞でスリッパを作ることができる(10月①) バンダナで帽子、風呂敷でバッグ、ポンチョ、リュックを作ることができる(12月②)

食…サバメシでゆでたまご、ホットケーキを作ることができる(4月③10月①) マッチやライターを使わず火おこしができる(5月②③) ブロックでかまどを作ることができる(7月②) ハイゼックス炊飯袋の使い方がわかる(7月②10月①) アルミ箔を使った調理ができる(7月②) 食器がなくても牛乳パックで作ることができる、食器を汚さない方法がわかる(7月②10月①3月①) 米やパンがなくてもコナモンを美味しく食べる方法がわかる(9月①) 水の大切さ、水道から水が出ないことの不便さがわかる(10月①) 牛乳パックを使ったホットドッグの作り方がわかる(10月①) 食べられる野草、毒草がわかる(1月①) カンパンの美味しい食べ方がわかる(2月②) コンロ、ナイフ、食器がなくても調理できる(3月①)

住…廃油を使ったキャンドルの作り方がわかる(6月③) 避難所でのメッセージの伝え方がわかる(7月①) 市販のテントの建て方がわかる(7月②10月①) 安否札の使い方がわかる(7月③1月④) バケツリレーのやり方がわかる(8月①) マイトイレの作り方、使い方がわかる(8月②10月①) 防水マッチの作り方がわかる(8月②) 新聞とひもを使って間仕切りを作ることができる(8月③) 水が出ない時のトイレの使い方を説明することができる(10月①) 段ボールや古新聞で寝る準備ができる(10月①) ブルーシートでテントが建てられる(10月①) いろいろな方法(油性マジックやシーチキン他)で明かりをつけられる(10月①) 空き缶やペットボトルでランタンをつくることができる(10月①) あっそ防災手ぬぐいの遊び方、遊びの大切さがわかる(11月②) 単3電池を単1電池にする方法がわかる(12月①) 避難所などで、バンダナマジックで人を楽しませることができる(12月②)

災害時要援護者への配慮…アレルギー、高齢者、嗜好、乳幼児に対応した食事作りができる(7月②10月①) 利き手が使えない、歩けない、目の不自由な人の大変さがわかる(10月①) 英語で「何かお手伝いしましょうか? Please tell me if you need help. Do you need help?」と聞くことができる(10月①11月③) 手話で「何かお手伝いしましょうか?」と聞くことができる(10月①11月③) 盲ろうの人に手のひら書きで言葉を伝えることができる(10月①) ガイドロープの使い方がわかる(10月①) 過ごしやすい避難所がわかる(通り道が必要、壁伝いの方が歩きやすいなど)(10月①) 身体の不自由な人へのお手伝い(車いすの介助)ができる(10月①)

その他…上富田の洪水の歴史、自然遺産を知る(ジオパーク探検)(4月①) 被災地支援(4月②・5月①) 危険を大声で知らせることができる(6月②) 助けを求めることができる(6月②10月②) テレビ、ラジオ、新聞取材による啓発(7月②10月①10月②その他) 地震、津波についての基礎を勉強する(9月②③) 起震車体験(9月②) 過去の地震、津波について勉強する(9月③) 濱口梧蔭さんについて知る(9月③) 語り部の話を聞く(9月③10月①その他) 避難所の一人当たりのスペースの狭さがわかる(10月①) 日本や海外の被災地、震災遺構について知る(10月①) 水害から避難する時に気を付ける事がわかる(10月①) もやい結びができる(10月①) 尿取パットやラップ、ストッキングを使ったけがの手当てができる(10月①12月②) 三角巾や買い物袋を使って骨折の固定ができる(10月①12月②) 液状化現象について知る、このあたりの地盤について知る(10月①) 地震の後にガラスが散乱することがわかる(たまごのカラ踏み体験)(10月①) あっそ児童館の災害備蓄の場所と種類がわかる(10月①) 避難した後に被害がなくても、次も必ず避難しようと大人に伝えることができる(10月①) 家を安全にする方法がわかる(耐震化、ガラス飛散フィルム、家具の転倒防止など)(10月①) 近所の安否確認ができる(10月②) 避難カードの書き方がわかる(10月②) 緊急時の音を聞き分けることができる(パトカー・白バイ・救急車・消防車・火災警報器・緊急地震速報)(10月②) 近所の災害時に役立つ物の在処、使い方を知る(消火器、24時間大人がいる場所、AED、消火栓、災害備蓄倉庫、公衆電話などの場所を知る)(11月①) 近所の施設と連携を図る(11月①) 朝来小学校以外の高台の避難所を知る(11月①) あっそ防災手ぬぐい製作(11月②) 様々な防災手ぬぐい、バンダナ、風呂敷を見る(11月②) 手ぬぐいの使い方がわかる(ヘルメット、傷の手当、かぶり方、巻き方他)(11月③) 非常持ち出し袋の中身を知り、非常用グッズの使い方を知る(12月①) バンダナ、三角巾、風呂敷を使って応急手当ができる(12月②) 三角巾に応援メッセージを書くことで、負傷者を励ます事ができる(12月②) 災害用伝言ダイヤル「171」を家族で使うことができる(1月②) 災害時、児童館利用中の子ども達の避難について保護者に連絡する(1月②) 楽しく防災を学ぶ(1月③) 安否札、手ぬぐいを配布することによる啓発(1月④) 正常性バイアス(都合の悪い情報を無視したり、「自分は大丈夫」「今回は大丈夫」などと過小評価する心)を豆まきで追い払う(2月①) 頑張ったことが表彰され、モチベーションが上がる(3月②) 1年間の反省や改善策、今後やってみたいことがわかる(3月②)

(自由記述: 3/3)